

一三三	六萬九千九百五十二	二六六	六萬三萬七千七百	二二四	五八三九七五五	二七八	五萬一萬四萬〇一五	三五二	三萬七千七百〇〇〇	四三三	二二萬八千九百〇〇〇	二二九	一八萬〇千九百〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇	五	一四九七五〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇
一三二	一三萬五千〇〇〇	八三	一八萬六千〇〇〇	一六	一七萬四萬〇〇〇	三八	二七萬五萬〇〇〇	七七	三〇六千七〇〇〇	七一	一四萬八千五百〇〇	三三	一五萬〇〇〇	三	一五〇〇〇	三	一四九七五〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇
一三一	七十一萬〇〇〇	八〇	一三三萬三〇〇〇	一〇	一一〇〇〇〇	二一	七五萬〇〇〇	四四	四〇五〇〇〇	三五	三三萬七千五百〇〇	三三	六九四〇〇〇	七〇	八五〇〇〇	四	四三九七五〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇
一三〇	五五〇〇〇	一一	三三萬〇〇〇	一	一三〇〇〇〇	一四	一八〇〇〇〇	二六	七八〇〇〇	二〇	四三二〇〇〇	二五	四三二〇〇〇	二五	一六九二〇〇〇	二	一四九七五〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇
一二九	一三三萬三〇〇〇	八三	一八萬六千〇〇〇	一〇	一一〇〇〇〇	二一	七五萬〇〇〇	四四	四〇五〇〇〇	三五	三三萬七千五百〇〇	三三	六九四〇〇〇	七〇	八五〇〇〇	四	四三九七五〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇
一二八	一三三萬三〇〇〇	八三	一八萬六千〇〇〇	一〇	一一〇〇〇〇	二一	七五萬〇〇〇	四四	四〇五〇〇〇	三五	三三萬七千五百〇〇	三三	六九四〇〇〇	七〇	八五〇〇〇	四	四三九七五〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇
一二七	一三三萬三〇〇〇	八三	一八萬六千〇〇〇	一〇	一一〇〇〇〇	二一	七五萬〇〇〇	四四	四〇五〇〇〇	三五	三三萬七千五百〇〇	三三	六九四〇〇〇	七〇	八五〇〇〇	四	四三九七五〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇
一二六	一三三萬三〇〇〇	八三	一八萬六千〇〇〇	一〇	一一〇〇〇〇	二一	七五萬〇〇〇	四四	四〇五〇〇〇	三五	三三萬七千五百〇〇	三三	六九四〇〇〇	七〇	八五〇〇〇	四	四三九七五〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇
一二五	一三三萬三〇〇〇	八三	一八萬六千〇〇〇	一〇	一一〇〇〇〇	二一	七五萬〇〇〇	四四	四〇五〇〇〇	三五	三三萬七千五百〇〇	三三	六九四〇〇〇	七〇	八五〇〇〇	四	四三九七五〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇
一二四	一三三萬三〇〇〇	八三	一八萬六千〇〇〇	一〇	一一〇〇〇〇	二一	七五萬〇〇〇	四四	四〇五〇〇〇	三五	三三萬七千五百〇〇	三三	六九四〇〇〇	七〇	八五〇〇〇	四	四三九七五〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇
一二三	一三三萬三〇〇〇	八三	一八萬六千〇〇〇	一〇	一一〇〇〇〇	二一	七五萬〇〇〇	四四	四〇五〇〇〇	三五	三三萬七千五百〇〇	三三	六九四〇〇〇	七〇	八五〇〇〇	四	四三九七五〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇	一〇〇	一八〇〇〇〇〇

附 錄

(第一) 被害地ノ實況

一、本 吉 郡

本縣海嘯ノ災害ヲ被リタルハ本吉桃生杜鹿ノ三郡ニシテ就中本郡ハ最も其慘狀ヲ極メ殊ニ同郡唐桑歌津階上ノ三村ハ最も劇甚ナリシモノニシテ郡内被害ノ町村ハ總テ十二家屋ノ流失九百四十八、全潰八十四(被害前戸數三千二百四十)死亡セシモノ三千二百六十五人(被害前人口二萬二千四百三)負傷者亦甚タ多ク重輕傷ヲ各セ千名ニ上レリ今左ニ順次被害地ノ實況ヲ叙セントス

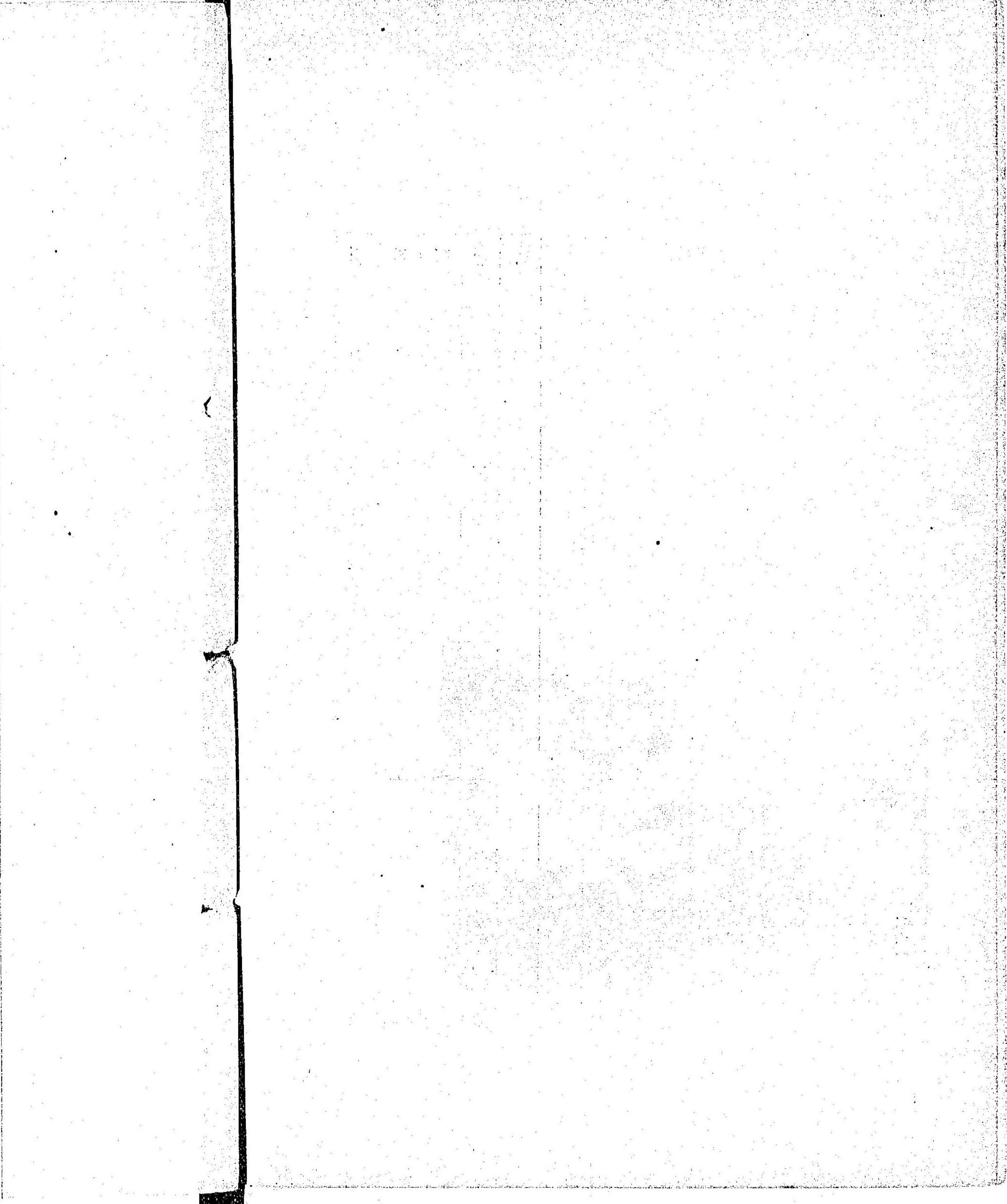
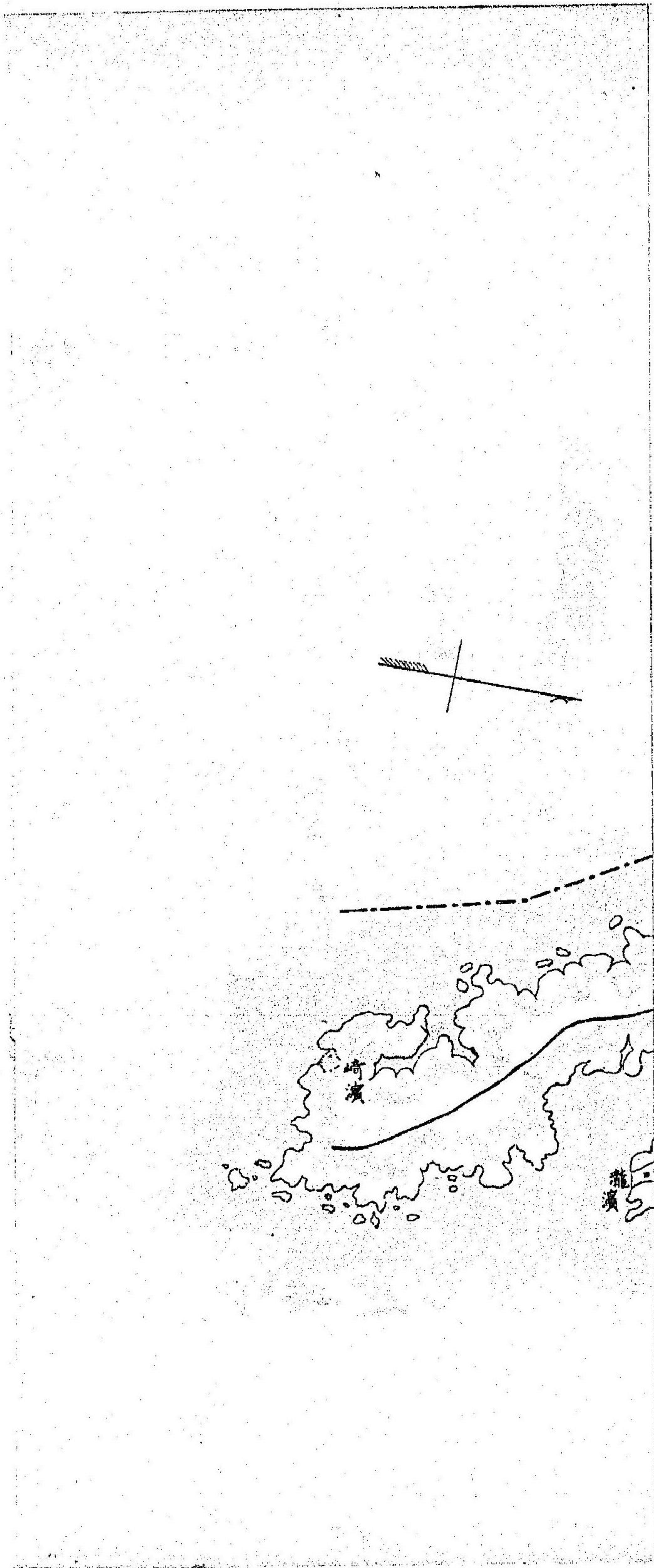
唐 桑 村

唐桑村ハ本縣ノ東北端ニアリ北ハ廣田灣ヲ隔テ、岩手縣ニ對シ南ハ氣仙沼灣ニ臨ミ沿岸凡ソ五里許ニシテ其ノ間大澤、岩井澤、只越、笹濱、崎濱、小鱈、縮立、石濱、馬場、宿浦、舞根ノ諸部落皆其ノ害ヲ被ラサルナシ最モ被害ノ甚タシキモノヲ只越、大澤、小鱈ノ三部落トス就中只越ノ如キハ戸數五十四、人口四百餘ニ過キサル小部落ナリシカ激浪

一 襲忽チ海岸ノ堤防ヲ決潰シ民家悉ク破壊捲奪セラレテ更ニ隻影ヲ止メス死スル者亦タ其半數ニ過ク大澤ハ村内極北ノ一部落ニシテ地勢南東及ヒ北東ニ廣田海ヲ扣ヘ出山其中央ニ突出ス潮流其ノ二面ヨリ激進シテ相衝突シ瞬間ニ慘害ヲ逞フセリ然レトモ之ヲ只越ニ比スルニ地域稍ヤ廣濶ナルヲ以テ西部山沿ノ家屋ハ幸ニ危難ヲ免カレタリ今左ニ被害各部落ノ概況ヲ示サン

字	家		屋		人		口
	被害前	流	潰	半	被害前	死	
大澤	九二	五	〇	〇	六五	一六	三
岩井澤	一一	二	〇	〇	一〇〇	一一	一
只越	五	五〇	一	一	四〇六	三七	八
笹濱	一四	二	一	一	二〇八	三四	二
崎濱	三	一	〇	〇	三九	一四	一
小鯖	四	二	〇	〇	三九	一五	三〇
鋪立	八	元	五	五	七五	六七	四

石濱	馬場	宿	浦	舞根	計
充	二〇	二七	一五	二四	五七
一四	五	一九	二	六	二四
一	〇	〇	二	二	三
五〇四	一六	一七五	二五	三三	三九五
六	三	三	四	三	九四
三	五	二〇	五	二	二六



唐桑村被書地



鹿折村



鹿折村

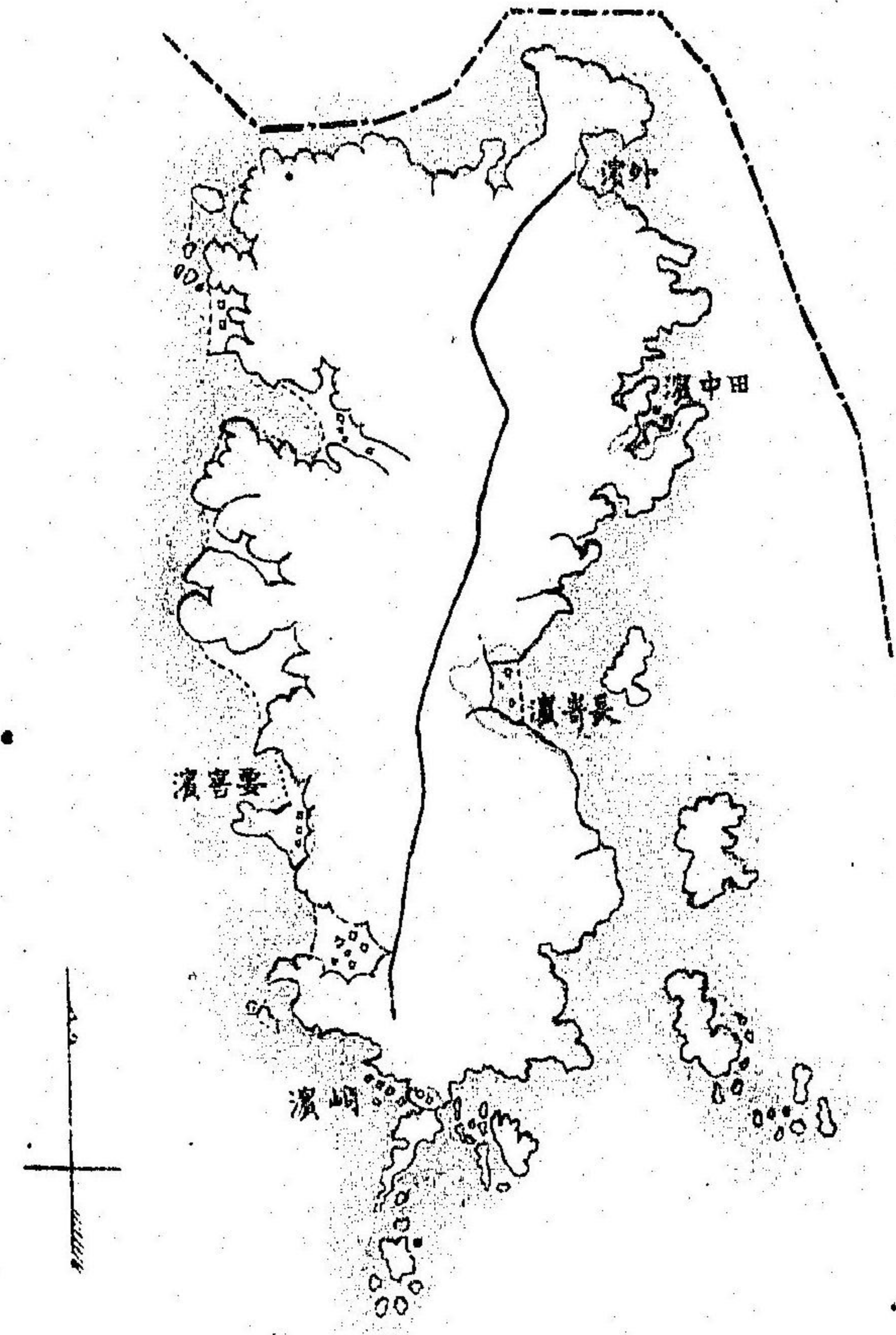
鹿折村ハ唐桑村ノ西ニ連リ其ノ一部ハ氣仙沼灣ニ接スト雖モ前面ニ大島ヲ控ヘ爲メニ激浪ヲ遮蔽セシヲ以テ幸ニ被害少ナク字鶴ヶ浦ト稱スル所ニ於テ総戸數十六戸ノ内流潰十戸溺死者八名アリシノミ其ノ他ハ僅ニ浸水ニ止マレリ

大嶋村

大嶋ハ氣仙沼灣ノ中央ニ横ハリ周回五里アリ村内ノ被害ハ比較的ニ少ナク家屋ノ流潰總テ二十二戸死亡六十一人ニシテ崎濱ニ於テ稍慘害ノ甚シキヲ見ル而シテ氣仙沼町ノ事ナキヲ得タルハ全ク本島ノ前面ニ横ハレルカ爲ナリ

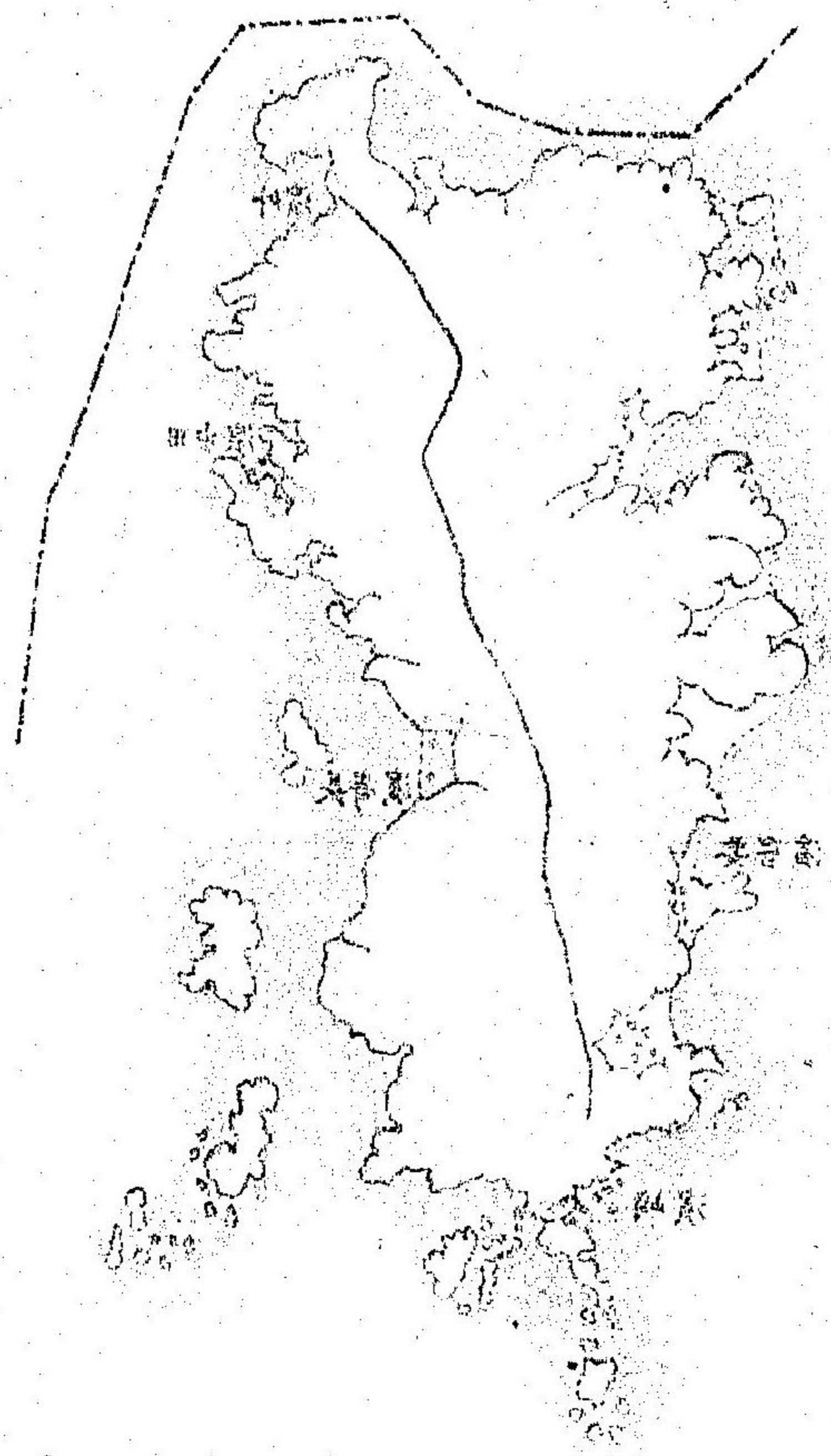
字	崎濱	長崎	田中	外濱
被害前	一五	四七	五	八
流潰	三	二	三	五
半屋	二	〇	〇	一
被害前	九三	四九	四三	八〇
死亡	二九	九	一六	七
負傷	二	〇	〇	一

大 嶋 村 被 害 地



計	三	三	三	一八四	六	三
---	---	---	---	-----	---	---

此等林島大



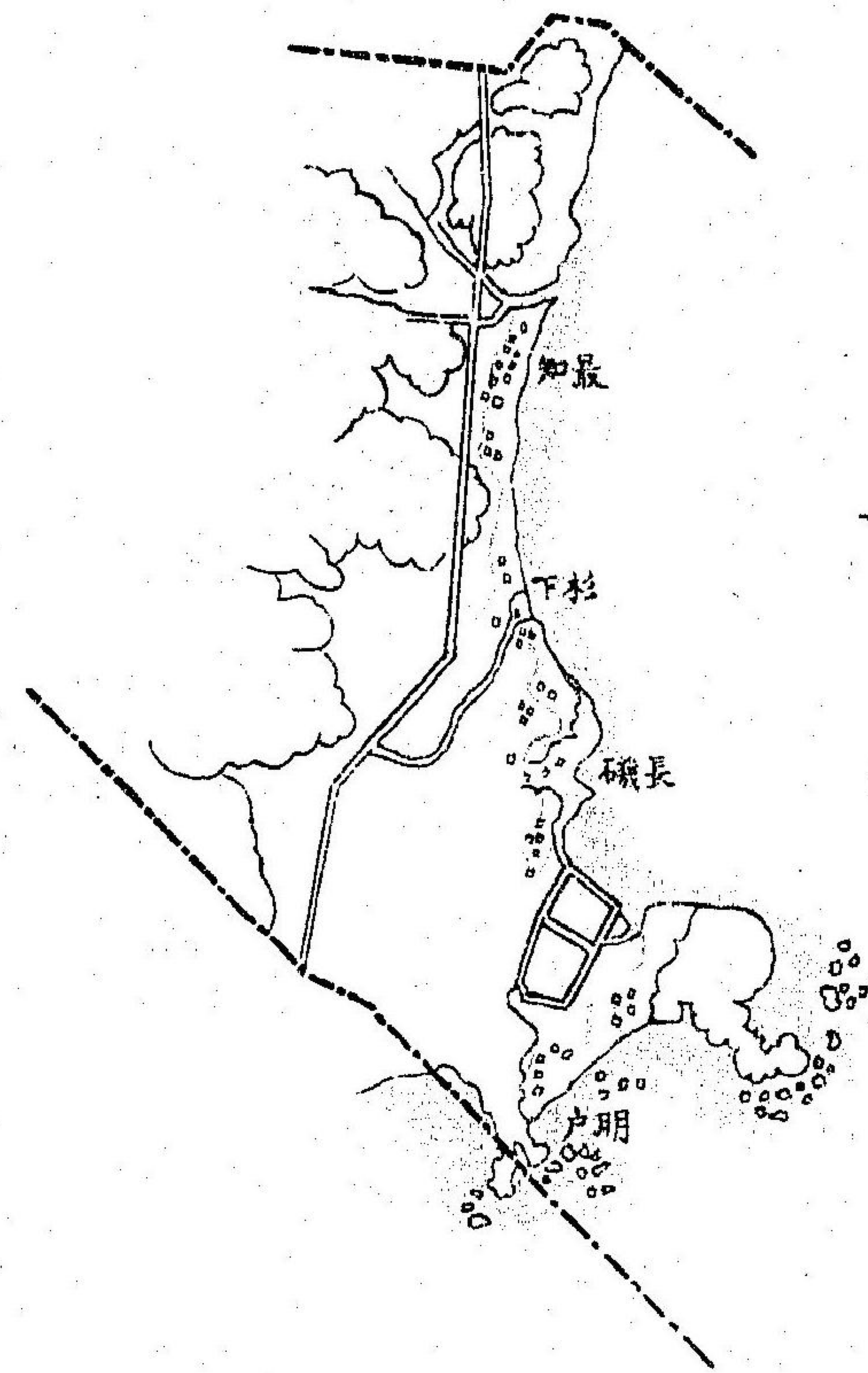
松岩村

松岩村ハ氣仙沼灣ニ臨メリ然レトモ大島及ヒ岩井崎ノ灣口ヲ扼スルヲ以テ激浪其勢ヲ逞フスル能ハス前濱及片濱等平均高サ八九尺ノ浪ヲ受ケタルノミ從テ被害甚タ少ナク僅ニ片濱ニ於テ全潰家屋一戸死亡(三人未定)人アリシニ過キス

階上村

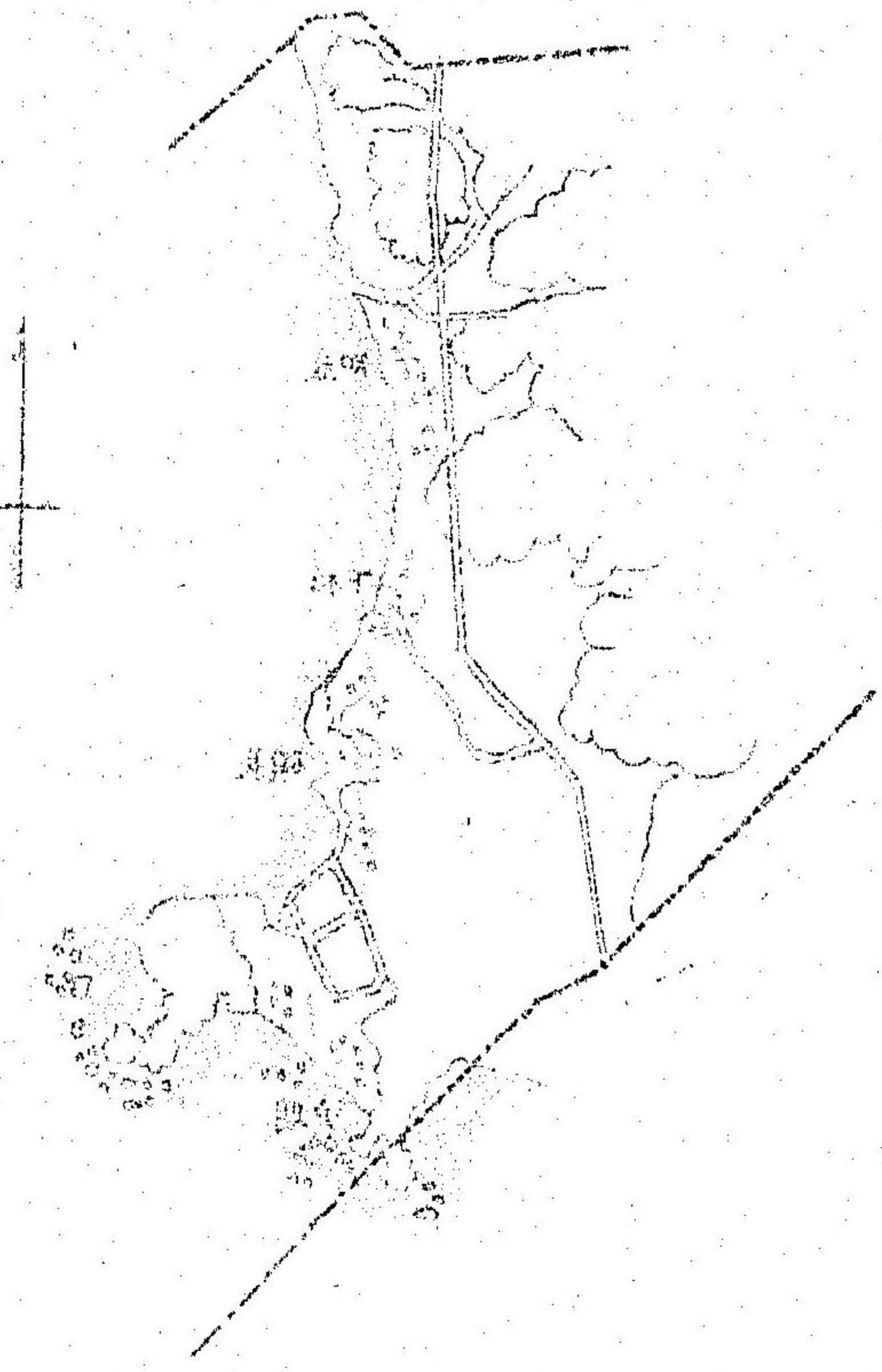
階上村ハ亦タ氣仙沼灣口ニ在リ岩井最知長磯等灣内ニ面スルノ地方ハ松岩村ト同シク大島ヲ前ニ控ヘ且ツ岩井崎ノ突出ニヨリテ激浪ヲ遮リ從テ被害モ亦タ少カリシモ字明戸ト稱スル部落ハ岩井崎ト明神崎トノ間ニ介在シテ南ハ大洋ニ面シ北ハ氣仙沼灣ヲ控シ其間相距ルコト僅ニ四五町地勢ハ南方ヨリ漸次北方ニ低ク海岸ニ接シテ人家列ナク北方ノ低地ニ沿フテ防波堤ヲ築キ一面ノ鹽田アリ故ニ北東ヨリ來レル高浪ハ明神崎ニ觸レテ益々激突シ直ニ其方面ヲ轉シテ北走シ八十七戸ノ民家ト四百有餘ノ生靈ヲ一掃シテ之ヲ鹽田ノ中ニ投シ殆ト其隻影ヲ留メズ悲惨悽絶ノ狀今ニシテ之ヲ懷フモ尙ホ悚然タリ蓋シ是レ本郡被害ノ最モ猛烈悲惨ナリシモノナリ

階上村被害地



前	長磯	杉ノ下	明戸	家		人		口
				被害前	流潰	被害前	死亡	
四〇	三六	一五	八九	八六	一	五八	四三	二四
九八	七	五	八六	三	二	一九八	三	一
二六三	二	〇	二六	二	七	二七	二七	二

津島林野害

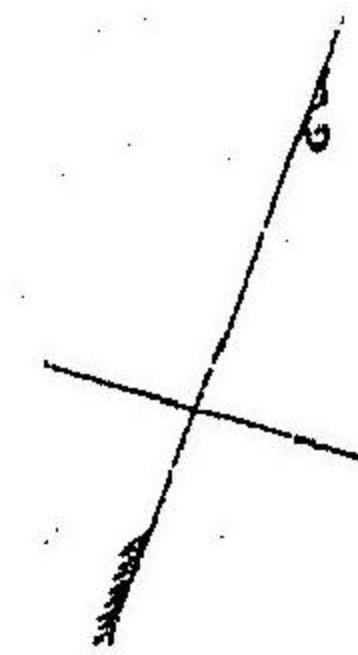
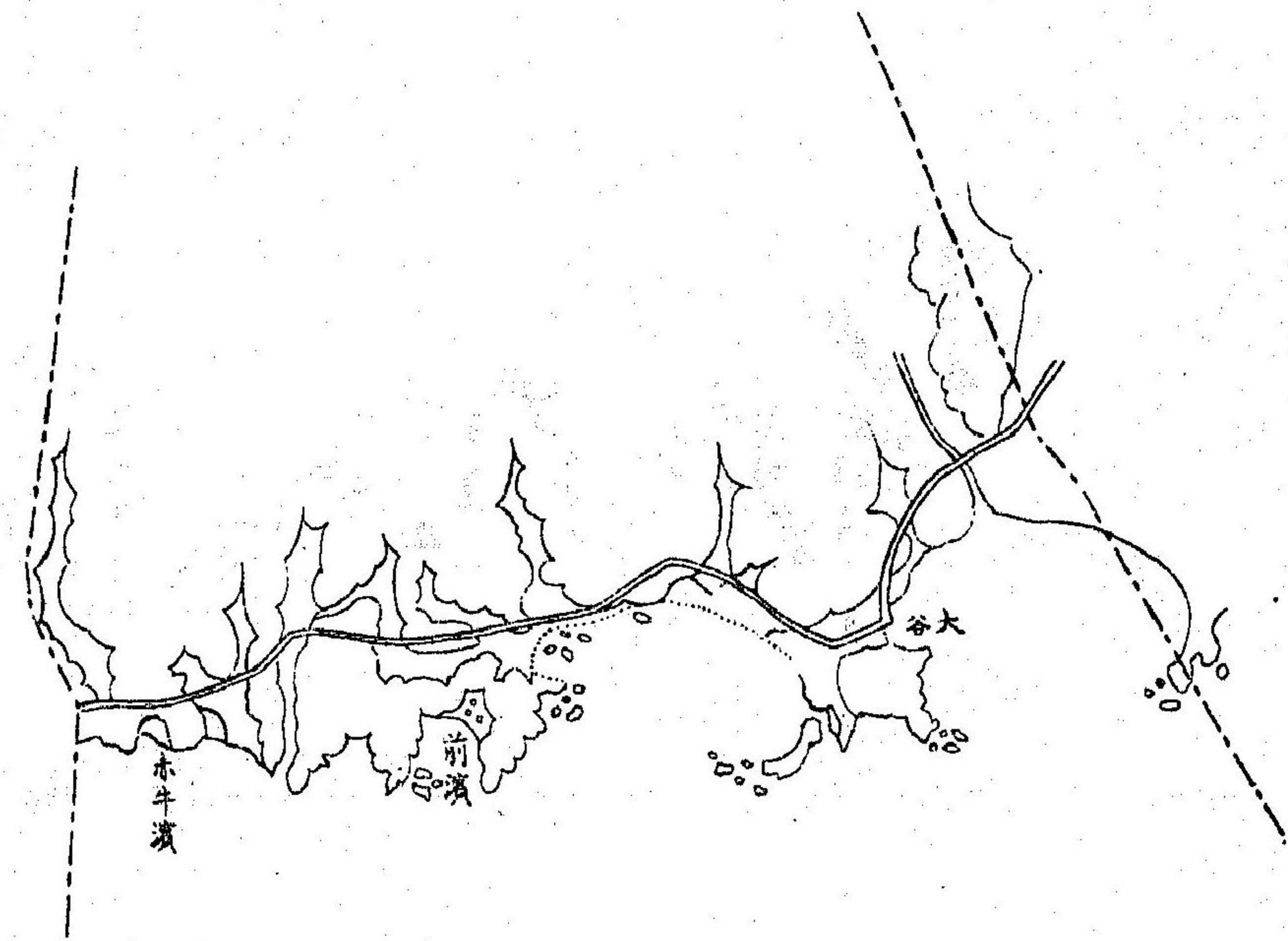


大谷村

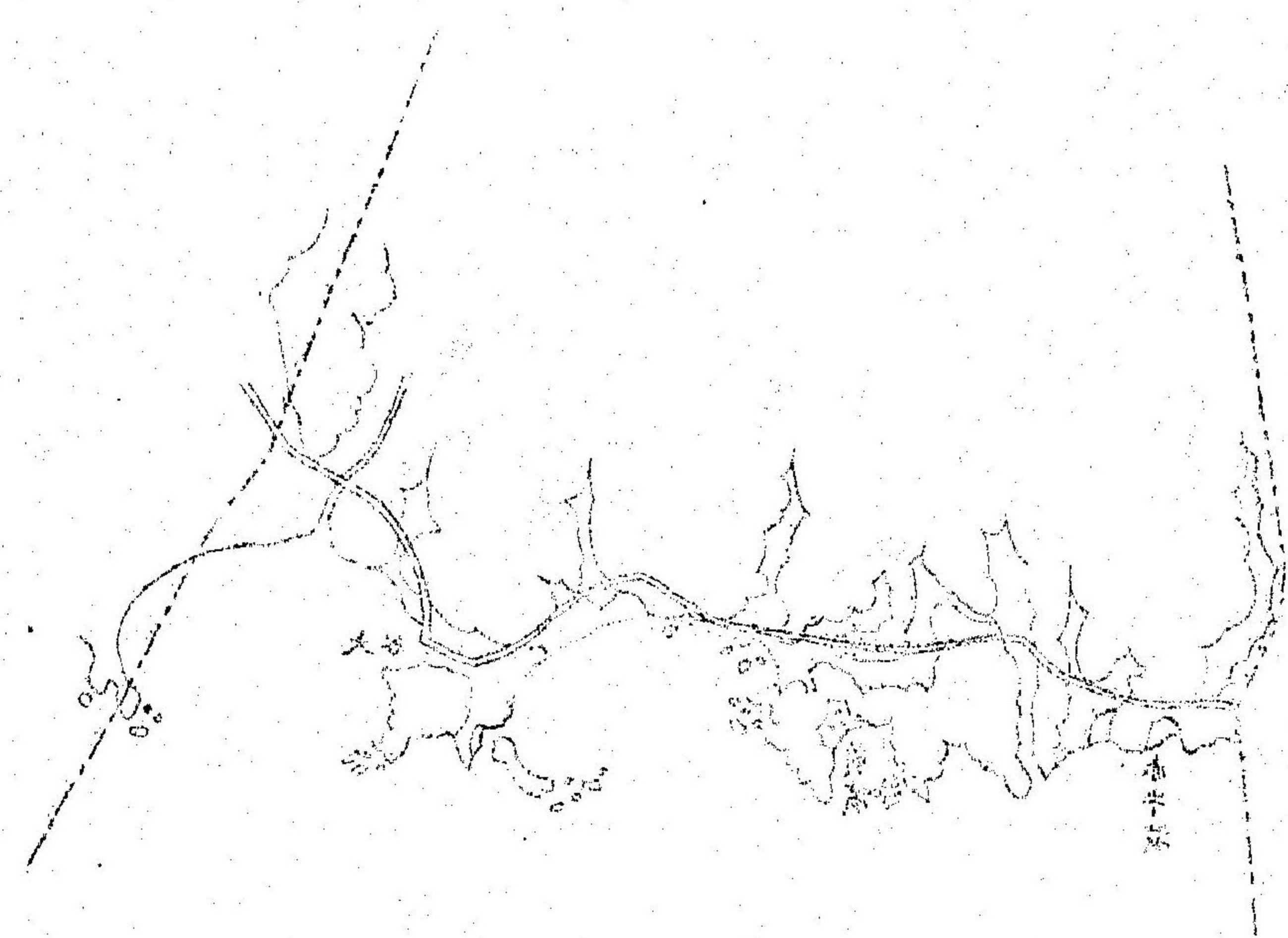
大谷村ノ内最モ慘害ヲ被リシモノヲ字大谷トス大谷ノ地勢ハ東西ニ海灣ヲ擁シ其間岬角突出スル處民家相連接シテ一部落ヲナセリ故ニ激浪三面ヨリ襲來シテ西北部高地ヲ除クノ外悉ク民家ヲ流亡シ死スルモノ二百五十人ノ多キニ及ヘリ蓋シ其ノ慘狀只越ニ過キ明戸ニ次クモノナリ大谷ノ西ニ不動川ト稱スル一條ノ河流アリ傳ヘ言フ此ノ川ハ原ト南角沼尻ト稱スル處ニ注キシヲ慶長十六年海嘯ノ時潮流漲リ來リテ河水汎濫シ爲メニ民家田園ヲ害セシコト多カリシカ當時流域ヲ變シテ今ノ河窪ノ地ニ移セルナリト

字	家		人		口
	被害前	流潰半	被害前	死亡	
大谷	九	六	七〇	二四二	六〇
平磯	三四	六	九六	八二	二〇
計	三三	八四	一六六	三三	八〇

大谷村被害地



御嶽村被害地圖



御嶽村

御嶽村ハ沿海ノ箇所少ナク且ツ地勢一帯ニ高キカ故ニ從テ被害モ亦多カラス只字大澤ニテ戸數五十八戸ノ中家屋ノ流潰二戸死亡三人負傷二人アリシノミ

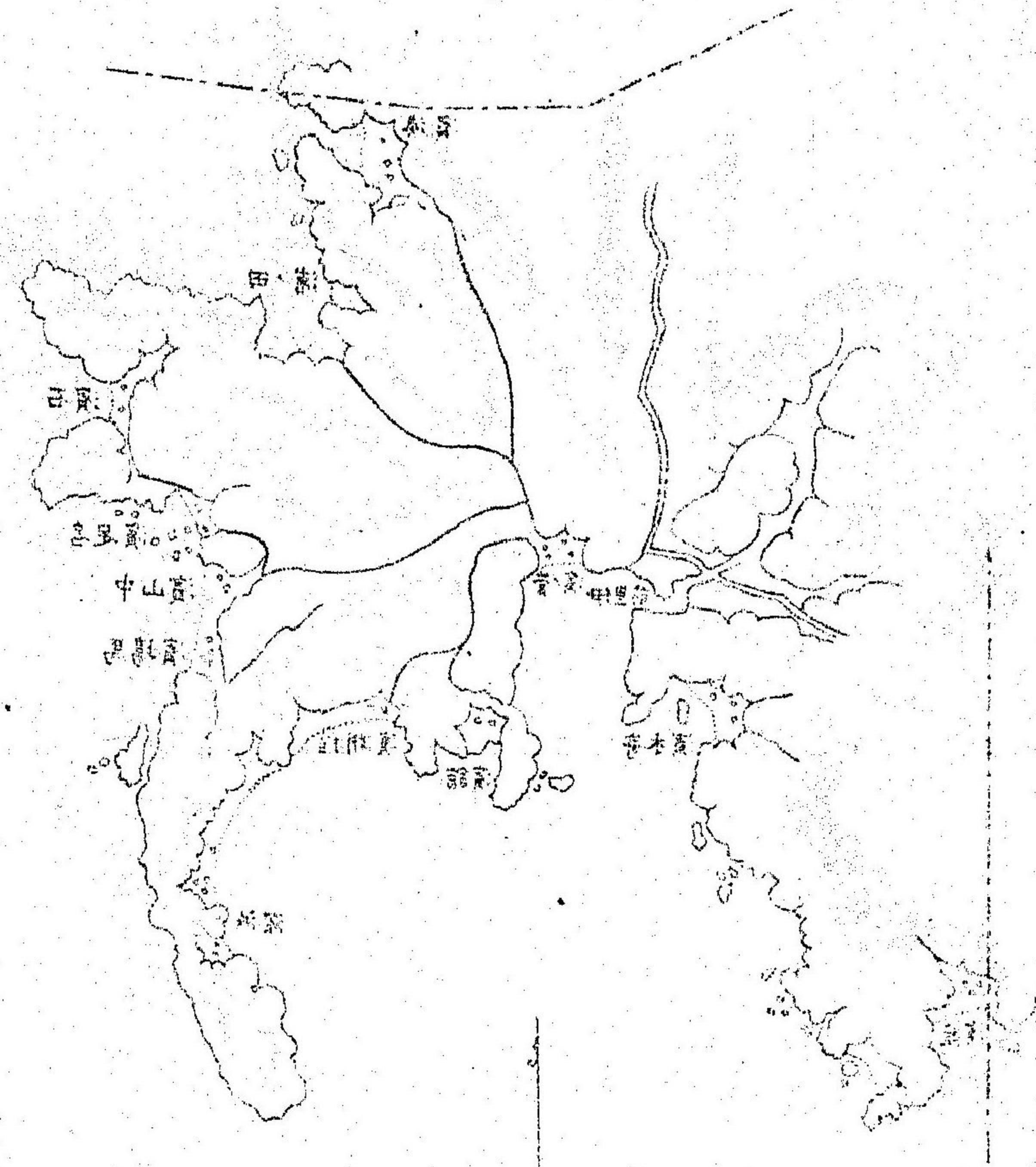
小泉村

小泉村ハ本郡ノ中央ニアリ志津川町ヲ北ニ距ル四里半氣仙沼町ヲ南ニ距ル六里ニシテ地勢東小泉灣ニ臨ミ沿海ノ小泉廿一濱今朝磯濱歌生濱藏内濱ハ皆其ノ害ヲ被レリ就中廿一濱最モ慘狀ヲ極メ殆ント家屋人畜ヲ一掃セラレキ此ノ地元郡内屈指ノ富豪多ク從テ家屋ノ結構頗ル宏莊ナリシカ瞬間ニ粉碎セラレ幸ニ難ヲ免カレシモノハ三十七戸ノ内僅ニ四戸アルノミ其ノ餘半潰二戸死亡凡ソ百五十人ニ及ヘリ藏内濱歌生濱之ニ次キ小泉今朝磯ハ被害最モ少ナシ次ニ小泉驛ハ北東海岸ニ一帯ノ松林ヲ扣ヘ田圃其間ニ連ナルヲ以テ潮勢大ニ減殺セラレ僅ニ驛頭ノ浸水ノミニ止マリシハ僥倖ト謂ツヘシ

字	被害前	被害	半	潰	被害前	死亡	負傷
小泉	一	三	三	三	八	〇	〇

田ノ浦濱

計	田ノ浦濱	石ノ濱	名足濱	中山濱	馬場濱	泊濱	稻淵濱	館濱	管ノ濱	伊里前	寄木濱	韭ノ濱
五三	五	八	六	九	二	三	六	八	八	七	六	七
四三	五	八	六	三	四	八	〇	〇	九	一	五	二
三三	三	二	二	一	〇	一	〇	三	一	二	〇	六
三四〇	四	三	四	一	九	七	三	九	四	八	七	二
八八	九	六	四	四	五	八	二	六	五	九	九	〇
二〇一	四	七	五	八	九	二	〇	〇	〇	六	二	〇

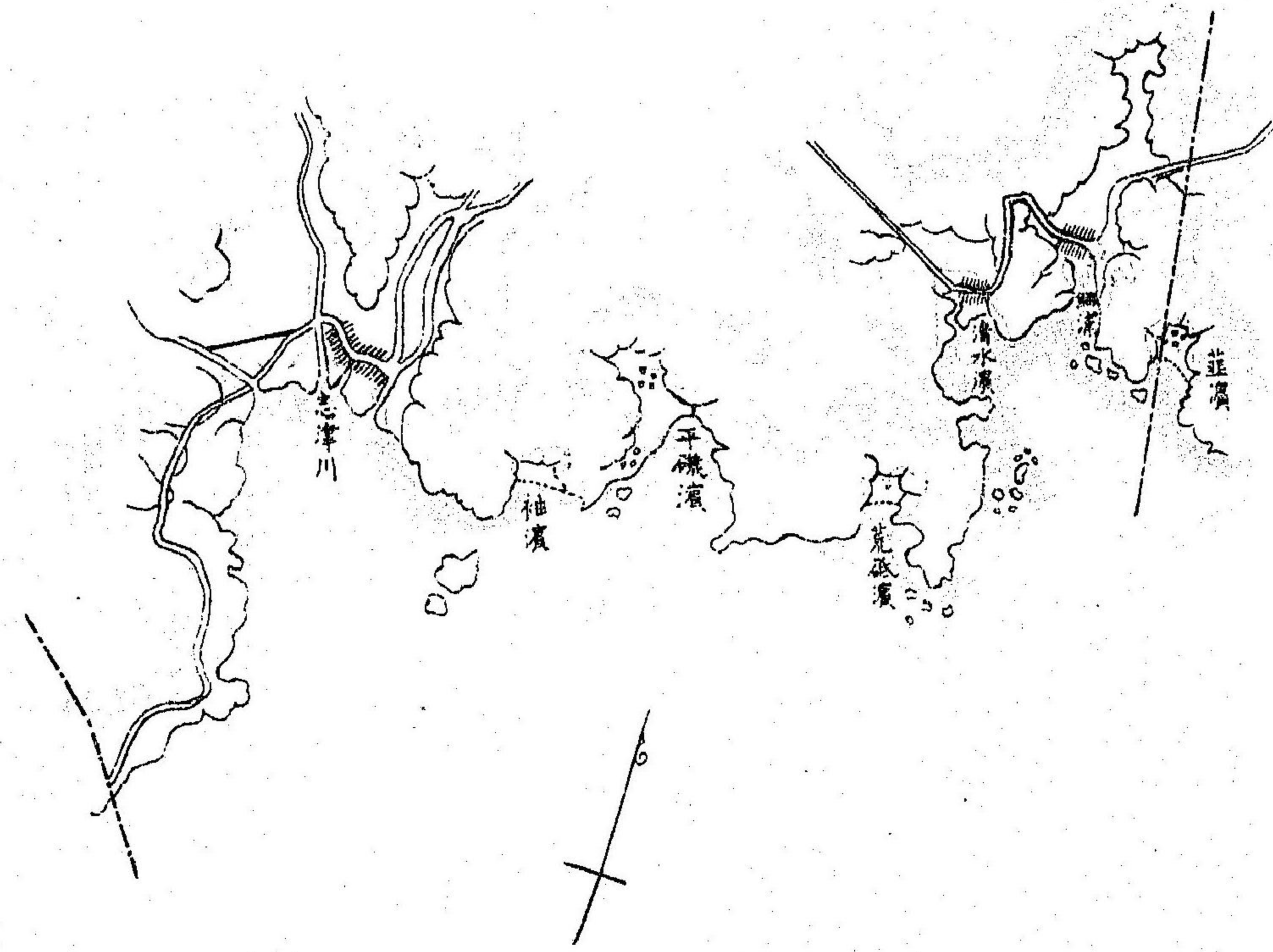


志津川町

志津川町ハ志津川荒戸袖濱平磯清水濱細浦ノ總稱ニシテ志津川灣ノ北岸ニ臨メリ
 志津川ハ一小市街ヲナシ戸數亦尠ナカラス同海岸ノ沖須賀埋地ト稱スル所被害最
 モ甚シク流潰四十餘戸ニ及ヘリ然レトモ郡衙警察署町村役場病院等ノ所在地タル
 部分ハ幸ニ流潰ノ害ヲ被ラサリシヲ以テ本郡被害地ノ救護上ニハ頗ル好便宜ヲ得
 タリ最初被害電報ノ縣廳ニ達セシハ實ニ此ノ地ヲ以テ第一着トス清水濱細浦ハ共
 ニ山間ノ小部落ニシテ東灣ニ臨ミ海岸低平ナルカ故ニ其ノ害ヲ受クルコト最モ多
 ク家屋殆ト全滅シ存在スルモノ僅ニ數戸ニ過キヌ死者亦各百數十人ニ及ヘリ其他
 荒戸袖濱平磯等ハ比較的被害少ナカリシ

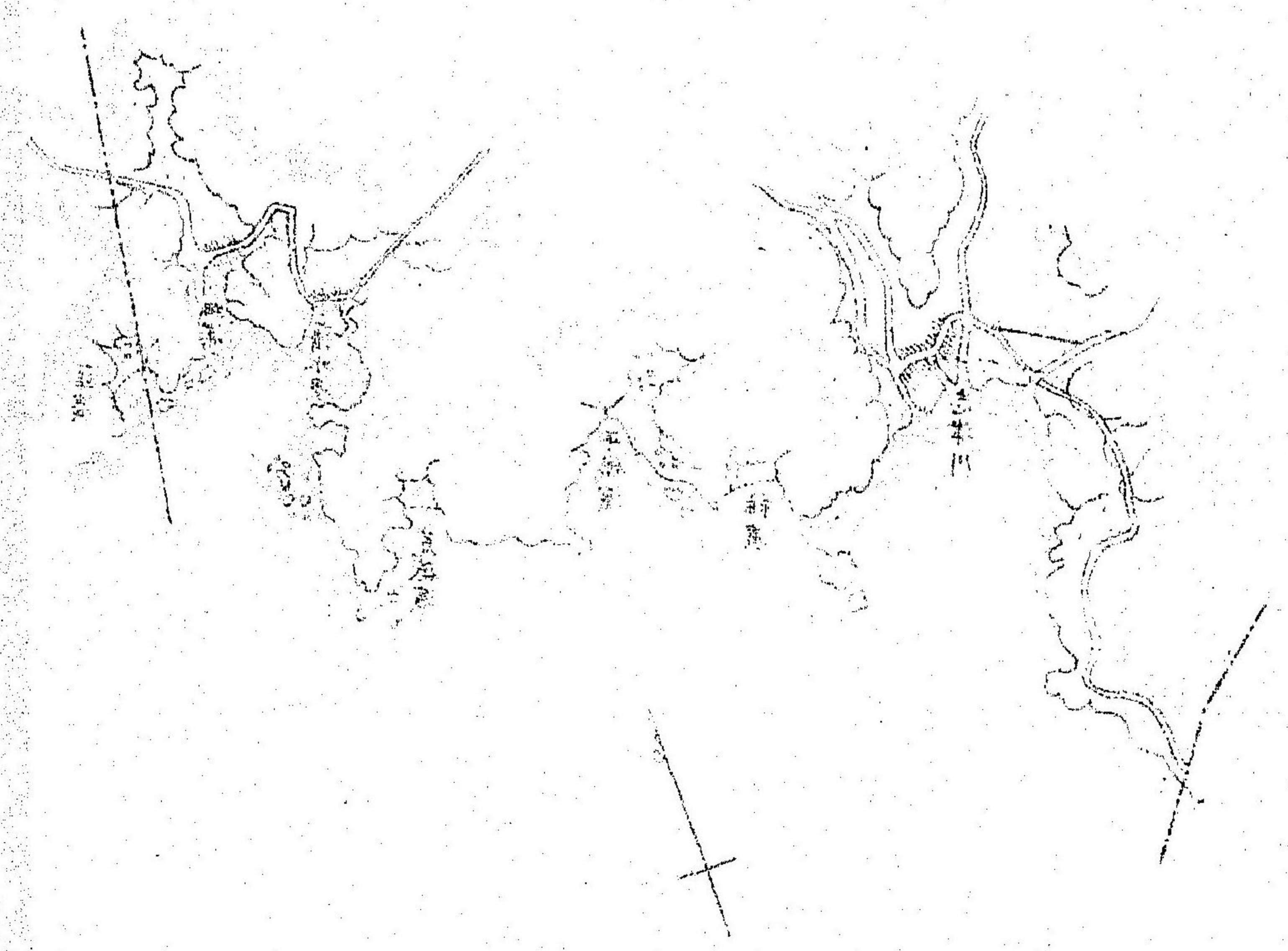
字	沖須賀地	埋地	荒戸	袖濱	家屋		人口	
					被害前	流潰半	被害前	死亡
	三	三	三	一七	三	一五	三七	三四
	三	三	三	一七	三	一五	三七	三四
	三	三	三	一七	三	一五	三七	三四
	三	三	三	一七	三	一五	三七	三四
	三	三	三	一七	三	一五	三七	三四
	三	三	三	一七	三	一五	三七	三四
	三	三	三	一七	三	一五	三七	三四
	三	三	三	一七	三	一五	三七	三四
	三	三	三	一七	三	一五	三七	三四
	三	三	三	一七	三	一五	三七	三四

志津川町秘書地



計	細浦	清水濱	平磯
二九	七	五	四
二二	三	六	二
三	〇	二	〇
一八〇	二六	三九	一七
三五	三三	一六	一〇
一六五	一五	七五	六

此處伊賀川津

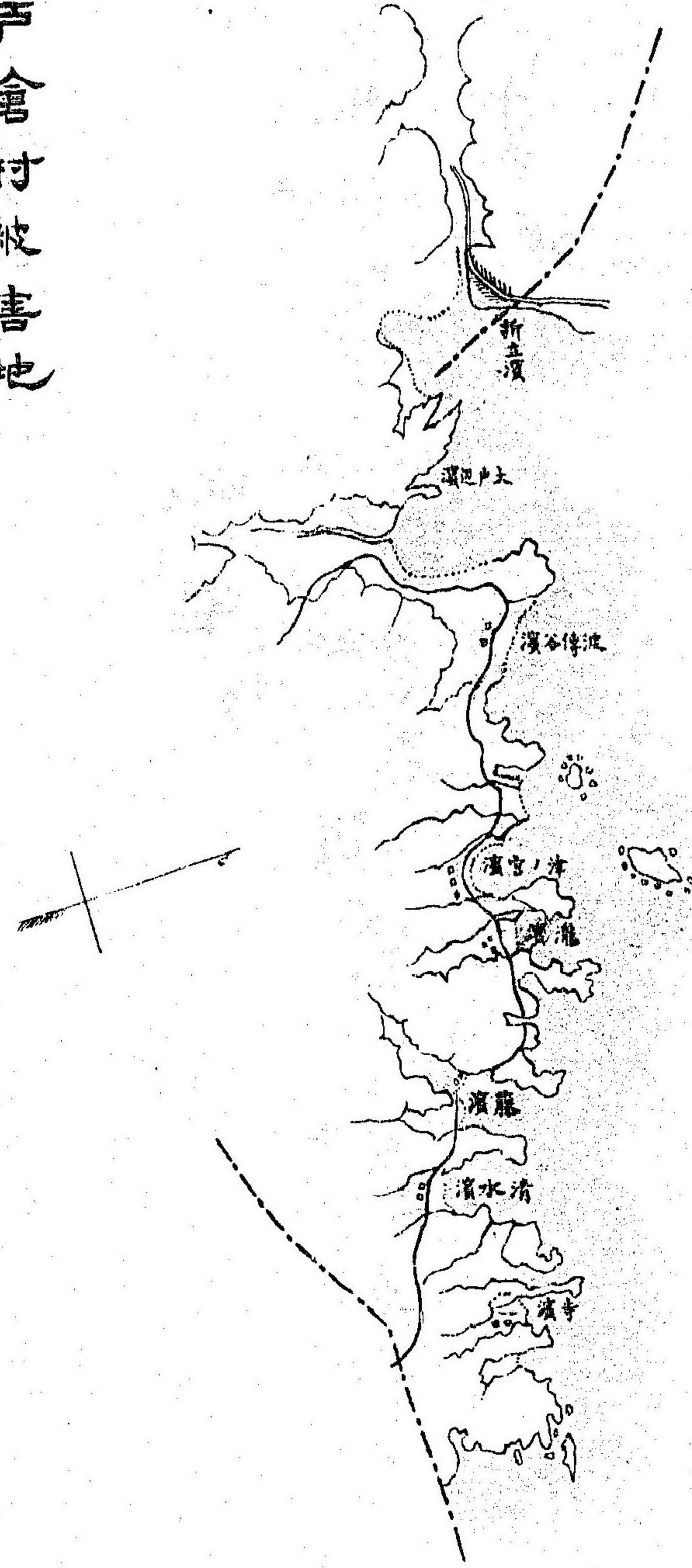


戸倉村

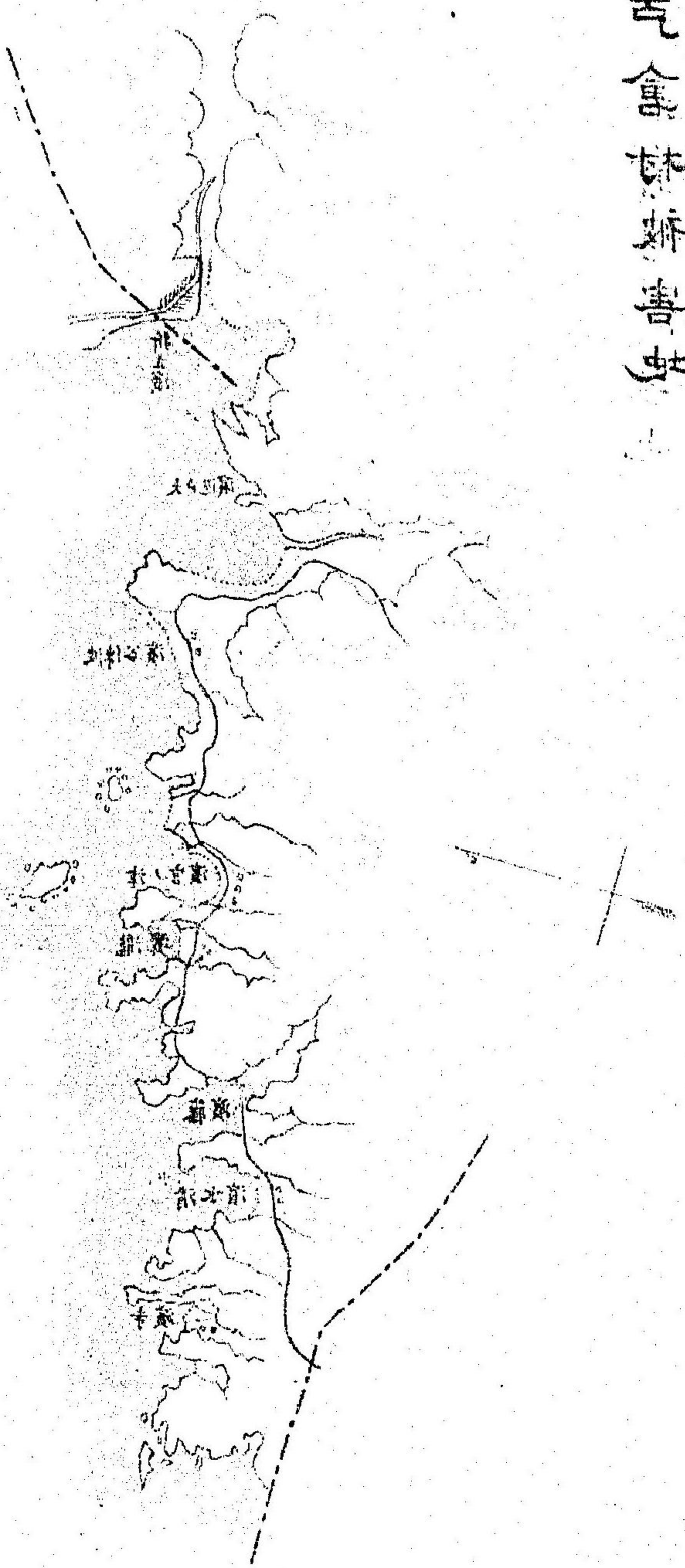
戸倉村ハ志津川灣ノ南岸ニ沿ヒテ折立水戸邊波傳谷津ノ宮瀧濱長清水寺濱等ノ總稱ナリ被害割合ニ少ナク家屋ノ流潰總テ四十二戸死亡者總テ七十三人長清水ヲ以テ最モ多シトス

字	被 ^家 害前	流	潰	半 ^屋 潰	被 ^人 害前	死	亡	負	口	傷
折立	六	二	八	八	四	五	〇	〇	〇	〇
水戸邊	七	〇	〇	〇	四	六	〇	〇	〇	〇
波傳谷	三	八	八	二	二	一	六	〇	三	〇
津ノ宮	三	三	二	二	一	七	〇	〇	〇	〇
瀧濱	三	六	〇	〇	一	七	二	〇	〇	〇
藤濱	二	五	一	一	八	九	八	〇	六	〇
長清水	二	三	四	四	一	五	三	〇	七	〇
寺濱	三	四	一	一	九	五	〇	〇	一	〇

戸倉村被害地



計	二五	四	二四	一三〇	一	三
---	----	---	----	-----	---	---

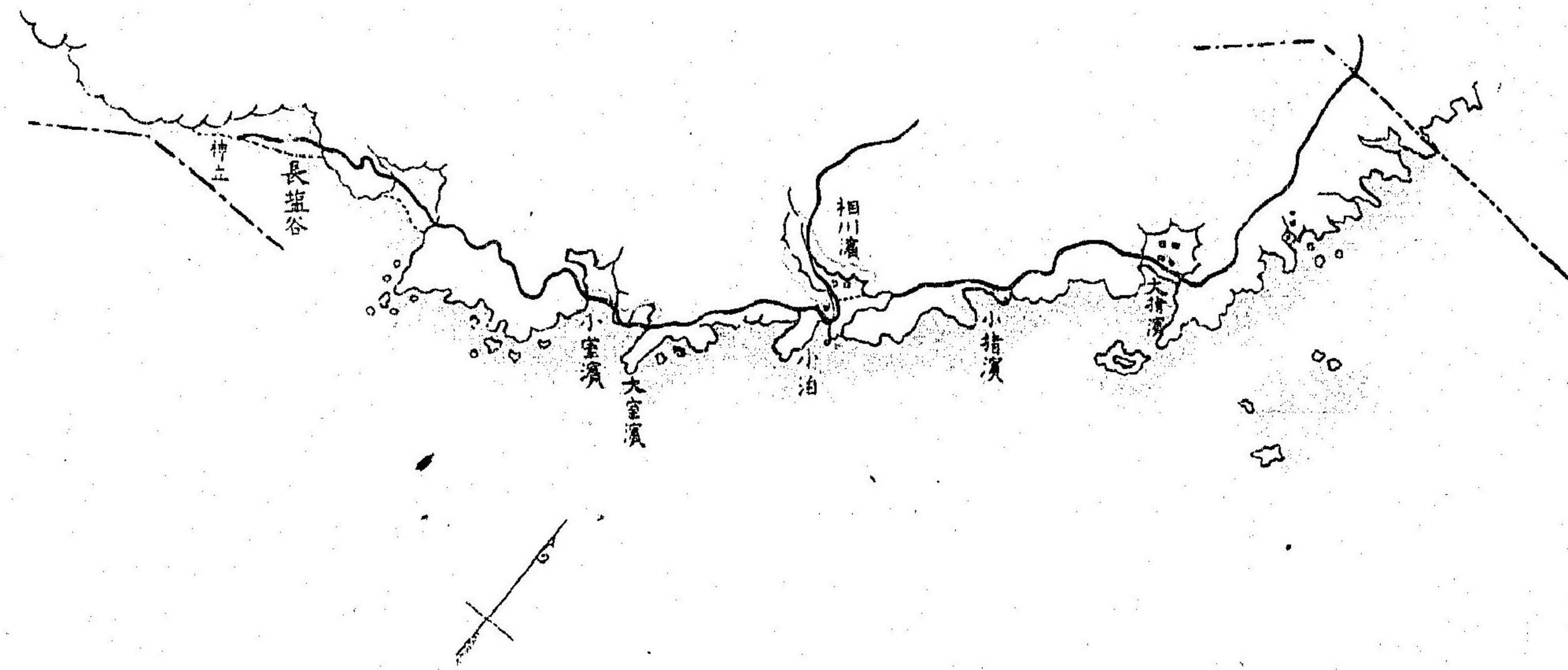


十三濱村

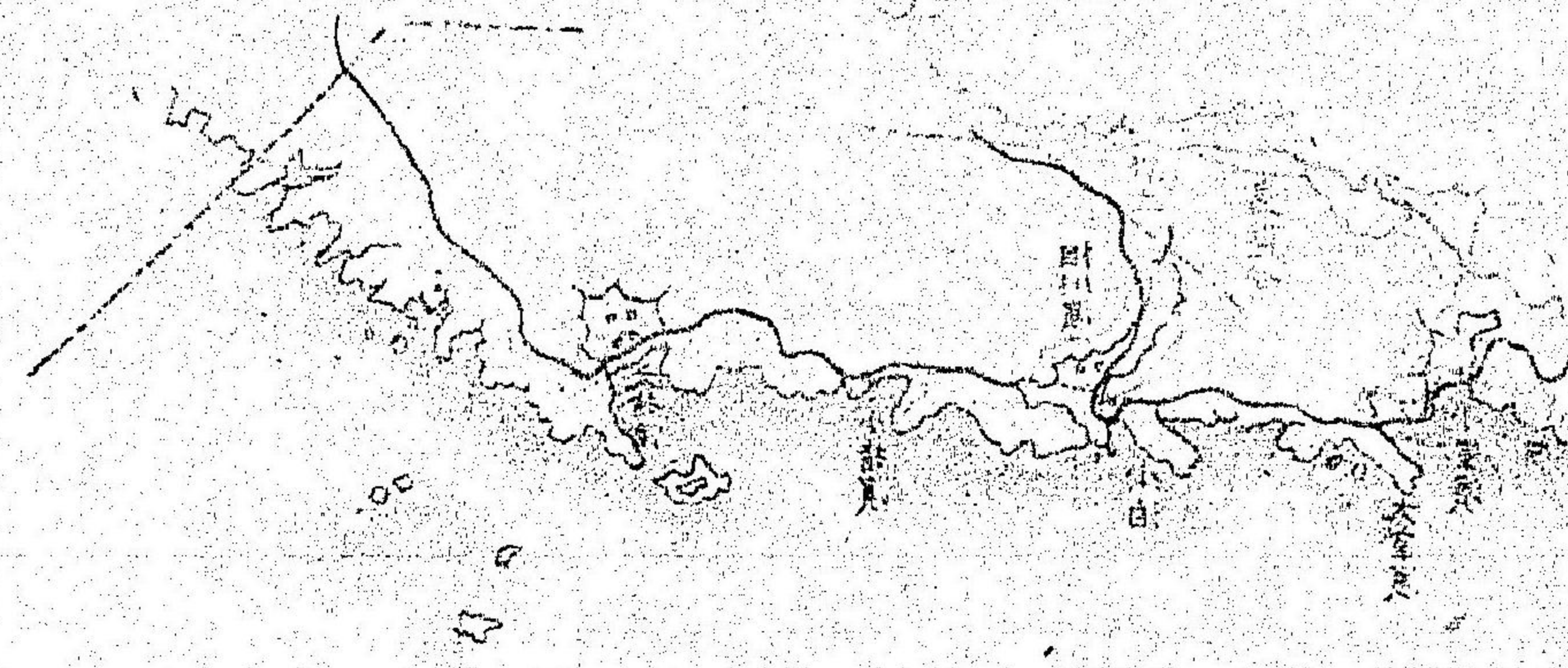
十三濱村ハ追波灣ノ北岸ニアリテ小瀧大指小指相川小泊大室白濱長鹽谷立神月濱吉濱追波ノ十三濱ヲ總括ス概シテ外洋ニ面スル部落ハ被害最モ甚シク相川大指小指ノ如キ殊ニ然リトナス就中相川ノ如キハ海岸ニ近ク民家相接セシヲ以テ全部殆ト流亡ノ災ニ遇ヒ死亡者亦百五十餘人ニ及ヒ村内被害ノ第一ニ位セリ唯タ小瀧濱ハ激浪最モ高カリシモ海邊ニ家屋ナカリシカ爲メ其ノ害ヲ被ラス其他小室以南ノ地ハ僅ニ浸水ニ止マリ家屋ヲ流失スルニハ至ラザリキ

字	家		人		口
	被害前	流潰半	被害前	死亡負	
小瀧濱	一五	〇	一三九	一	〇
大指濱	一七	九	一三九	一四	一五
小指濱	一五	一〇	一四	二四	一七
相川濱	一〇	三七	一七六	一六	三三
小泊濱	七	〇	六〇	二	四

地害被村瀆三十



計	月	立	長	白	小	大
	瀆	神	鹽	濱	室	室
			谷		瀆	瀆
三	三	三	三	三	四	三
三	〇	〇	〇	〇	〇	七
八	四	一	二	〇	二	三
一八六	三〇	二五	一〇八	一八四	二五	一六
二六	〇	〇	一	〇	〇	三
七五	〇	〇	〇	〇	〇	六



二、桃 生 郡

本郡沿海ノ地ハ大川十五濱ノ二村ニシテ十五濱村ハ被害最モ多シ全部家屋ノ流失
三十七戸全潰四十三戸ニシテ被害前戸數四百八十一戸死亡五十人負傷者二百三十
人アリ被害前人口二千八百七十六人蓋シ其ノ區域ノ狭キカ故ニ被害亦多カラヌ

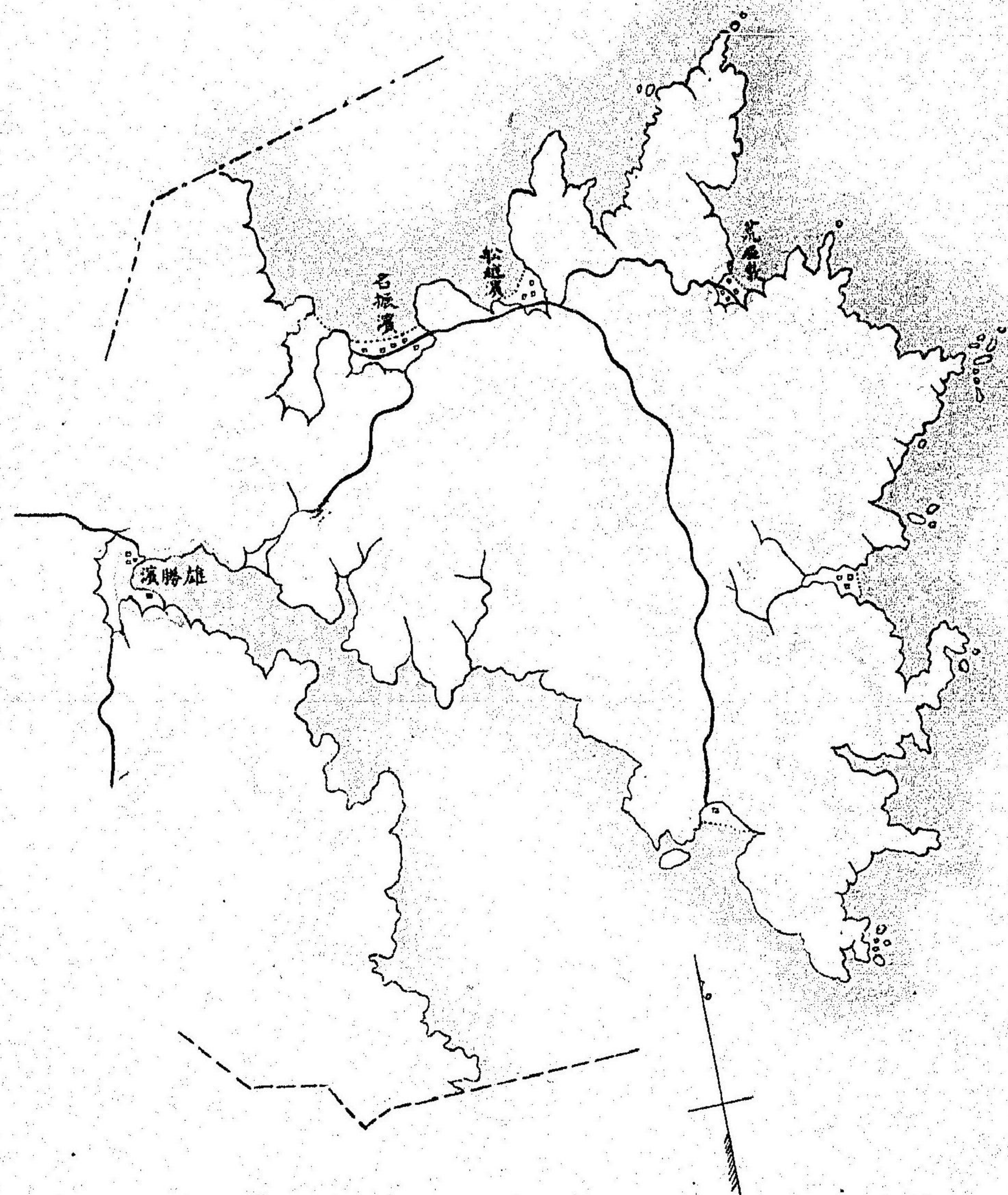
大 川 村

大川村ハ追波ノ河口ニ臨ミ又其灣ニ面シ居ルモ沿海民家少ナカリシヲ以テ流失家
屋僅カニ一戸死亡亦一人ニ止マレリ

十 五 濱 村

本村ノ被害地ハ雄勝船越名振ノ三部落ニシテ就中雄勝灣ハ恰モ囊狀ヲナシ本村ハ即
チ囊底ノ位置ニアリ百八十餘戸ノ人家ハ兩岸ノ山麓ニ沿フテ連リ直チニ海ニ臨メ
ルヲ以テ灣内ニ漲リ來レル激浪ハ一時ニ之ヲ襲ヒ家屋數百戸ヲ流潰シ死亡者殆ト
三十人ヲ出セリ宮城集治監ノ出役所亦此處ニアリ看守三十四人囚徒百九十五人ヲ
出役セシメ居リシカ其位置恰モ海嘯ノ衝點ニ當レルヲ以テ頗ル慘害ヲ被レリ然レ
トモ幸ニ救急ノ法其ノ宜シキヲ得タルヲ以テ看守八人囚徒五人ヲ失ヒタルノミニ

地害被瀆五十



計	名	船	雄	字	家		人		口
					被害前	流	被害前	死	
三六	五	六	一七	雄勝	四	七	一三三	三	三五
五	一	三	四	石浜	六	六	五八	七	八
三	〇	六	七	松越	〇	〇	四〇	一	一
二七	一	一	二	雄勝	一	一	一	一	一

テ其餘ハ悉ク難ヲ避クルコトヲ得タリ(斷島慘話出役)字船越ノ内荒屋敷ト稱スル所ハ
 僅カニ十六戸許ノ小部落ナレトモ直チニ外洋ニ面スルカ故ニ怒濤山ノ如ク襲來シ
 一瀉ノ下ニ二十五戸ヲ流潰シ全キモノ僅ニ一戸ヲ餘セルノミ死亡者亦尠ナカラス名
 振濱ハ前面ニ八景島アリテ潮浪ヲ遮蔽セシ爲メ幸ニ被害甚タ少ナカリキ

十五 鹿部 被害



三、牡鹿郡

本郡ハ縣下被害地ノ極南ニアリ激浪ノ中心ヲ距ルコト漸ク遠ク潮勢亦甚々急ナラ
 ス唯タ女川大原ノ二村ハ比較的多少ク害ヲ受ケシモ是レ亦各僅ニ流失四戸死亡一人
 アリシノミ鮎川村以南ハ殆ント浸水ニ止マリ家屋ヲ流シ人畜ヲ傷クルニ至ラス半
 島以西ノ地一帯ノ沿岸ニ至テハ潮水ノ異狀ヲ呈セシノミニテ何等ノ災害ナカリキ

女川村

郡中被害區域最モ廣キモノヲ女川村トス即チ女川灣沿岸一帯ノ諸部落北ハ御前濱
 ヨリ南ハ飯子野々濱ニ至ルマテ皆多少ノ損害ヲ被ラサルハナシ就中御前濱ハ灣ノ
 正面ニ當レルヲ以テ潮勢直進シ來リ家屋二戸ヲ流失セリ其他鷲ノ神ニ於テ一戸ヲ
 流失セシ外概テ半濱浸水ニ止マレリ但女川ニ於テ浸水六七尺ニ達セシハ蓋シ此邊
 ノ土地極メテ低ク僅ニ三四呎ニ過キサルカ故ナリ

御前濱	被害前	流	潰	半	潰	被害前	死	亡	負	傷
	三		四		四	一	三			

女川村被害地



計	飯子	鷺ノ神	女川	寺間	出島	竹浦	尾浦
三四	三	兎	亮	三〇	四	三	四
		一	〇	四	〇	〇	〇
		二〇	一	三	六	一	二
一八六	三三	三六	四八	三五	三一	三〇	二五
		一	〇				
		四	二				

此 害 林 川 女



大 原 村

本村宇谷川ハ鰈浦灣内ニアリ被害多カラスト雖モ尙ホ家屋流失四戸全潰二戸死亡一人ヲ出セリ江ノ島ハ陸地ヲ距ルコト東二里周回三里ノ一孤島ニシテ戸數七十八人口六百餘アリ此ノ地海嘯ノ衝ニ當ルヲ以テ激浪三四丈ノ高サニテ打寄セシモ人家ハ海面上八九丈ノ高地ニアルカ故ニ毫モ其ノ害ヲ被ラス唯タ船舶ノ破壊セシモノ一隻アリシノミ

三郡以外ノ海上景況

以上述フルカ如ク本吉桃生杜鹿ノ三郡最モ海嘯ノ慘害ヲ被リ其餘波延テ南部一帯ノ沿海岸ヲモ掠メ到ル所異常ノ潮候ヲ呈セリ

一、宮 城 郡

本郡七ヶ濱村ハ六月十五日午後九時頃海上寅卯ノ方面ニテ雷鳴ノ如キ音響アリ居民何レモ何事ナラント怪ミ居ル内高浪俄ニ襲來シ海岸ニ繋キアル漁船ノ陸上ニ打揚ケラレタルモノアリシモ堤防及ヒ海岸ノ破壊ハ勿論人馬等ニモ怪我ナカリシ而シテ襲來ハ僅ニ一回ナリキ

浦戸、松島、鹽釜三町村ノ海岸ハ同日午後八時頃強震アリ又東方ニ當リテ大砲ノ如キ音響ヲ聞ケリ就中松島村ニ於テハ潮流急激ニシテ海上異狀アルヲ認ム然レトモ三村トモ平穩ニシテ其ノ餘波ヲ被ラサリシハ群島ノ間ニ點在セルヲ以テナラン

二、名 取 郡

本郡ノ沿海六郷東多賀兩村ニ於テハ六月十五日午後八時三十分頃俄然波濤ヲ起シ襲來ノ響恰モ遠雷ノ如クナリシ而テ海嘯ノ浸入スルコト三回ナリシ

三、亘 理 郡

六月十五日午後九時十五分頃本郡東北即チ太平洋沖合ニテ數回遠雷ノ如キ鳴響アリ最後ニ轟然一大鳴動ヲ發スルト同時ニ海嘯ノ襲來アリ其ノ際山下村ニ於テ十數戸ノ家屋ヲ浸シ荒濱村ニ於テハ家屋ヲ浸サ、リシモ海嘯ノ高サ四尺以上ノモノ一回一尺以上二尺以下ノモノ二回襲來セリ

坂元村沿海ニモ海嘯アリ當初數十回ノ地震アリ次テ海中ニ百雷ノ一時ニ落チタルカ如キ激響アリタレハ居民驚愕シテ地震ノ前兆ナラン杯噀シ居ル間モ無ク海水急ニ押寄セ來リ同村字須賀一面ニ漲溢シ床上ヲ浸サレタル家屋六七戸破損セラレタ

ル漁舟十四艘アリ磯濱ニモ亦多少ノ被害アリキ大浪ノ襲來ハ都合四回ナリシモ十六日ノ朝ニ至リ平穩ニ歸シタレハ格別ノ被害ナカリシ

附岩手青森二縣ノ被害

岩 手 縣

一、氣 仙 郡

本郡被害ノ面積ハ各郡中最モ大ニシテ其被害モ亦タ少ナカラス廣田村六ヶ浦ト稱スル所ノ如キハ水面ヨリ五丈餘ノ高所ニ在ル民家ヲ襲ヒ又ハ激浪ノ爲メ船ヲ數丈ノ高キ山頂ニ打揚ケタリ郡内第一ノ被害唐丹村ト云ヒ其人口二千八百餘ノ中死亡者實ニ二千五百人ニ及ヘリ綾里村之ニ亞キ死亡者凡シ一千五百人ナリ

二、南 閉 伊 郡

本郡ハ被害地面積氣仙郡ニ及ハスト雖モ其被害ハ却テ甚シ即チ氣仙郡ハ一町十一ヶ村ニシテ六千八百餘ノ死亡者アリ本郡ハ僅ニ二町一ヶ村ニシテ無慮六千六百餘人ノ死亡者アリ以テ其慘狀ヲ推知スベシ釜石町ハ千二百餘戸ノ市街ニシテ人口六千餘アリ然ルニ海嘯ノ爲メ殆ト全部ヲ流失シ存スルモノ僅ニ百餘戸ニ過キスシテ

市街ハ全ク頽潰セリ大槌町鶴住居村ノ如キモ慘狀亦甚タシカリシ

三、東 伊 郡

本郡中被害ノ最モ多キ所ハ田老村ニシテ波浪ノ高キコト十餘丈ニ達シ潮流ノ勢最モ強大ニシテ沿岸ニ在リタル二抱以上ノ松樹凡百餘僅ニ根株ヲ存スルノミ又夕風帆船ノ海岸ヨリ二町餘ノ山腹ニ打揚ケラレタルモノアリ以テ其ノ慘況ノ一斑ヲ知ルヘシ船越村山田町亦各死亡者一千餘人ニ及ヘリ

四、北 伊 郡

本郡被害ノ最モ甚シキ所ハ普代村ニシテ死亡者一千餘人アリ小本村ハ三百八十六戸ノ中大半流潰シ僅ニ八十餘戸ヲ存セリ

五、南 九 戸 郡

久慈町被害最モ多ク家屋ノ流失百戸死亡者四百人アリ

六、北 九 戸 郡

種市村中野村ノ如キモ亦被害少ナカラス然レトモ氣仙郡等ニ比シテ被害ノ少ナキハ地勢ノ然ラシムル所ナルヘシト雖モ亦潮勢ノ激甚ナラサルニ因ルハシ(岩手縣調査)

青 森 縣

六月十五日午後八時海嘯ノ爲メ三戸郡湊村大字湊白銀民家流失四戸、破壊八戸、學校一、死亡者三人、生死不明ノ者二人アリ船舶漁具等流失破壊數多アリ又同日午後十時

上北郡三澤村沿海海嘯ノ爲メ家屋破壊人畜死傷アリ(六月十六日青森縣報告)

六月十五日ノ夜ノ海嘯ニテ三戸郡市川階上、上北郡百石三澤ノ四村モ害ヲ受ケ家屋

船舶數多流失シ死亡者亦數十人アリ(六月十七日同縣報告)

小官(知事)管内海嘯ノ被害地ヲ巡視シ昨夜歸廳セリ被害ノ區域ハ上北郡三澤村字天ケ森以南岩手縣界ニ至ル沿岸一帯ニシテ多少輕重アルモ概シテ慘狀ヲ極メタリ昨日マテノ調査ニ據レハ死亡三百六十六人、負傷者二百十三人、家屋流失及破壊四百六十五戸比々死体ノ漂着スルモノ抄ナカラス青森衛戍病院ヨリ軍醫二名、赤十字社並ニ同社青森支部ヨリ醫員二名宛各數人ノ看護人ヲ率テ出張救護ニ從事ス重傷ハ割合ニ少ナク手當ハ行届ケリ(六月二十二日同縣電報)

(第二) 生存者ノ逸話

本吉郡唐桑村字松畑漁業万右衛門

養子 千葉徳次郎(十九年)

本人ハ六月十五日午後八時頃鈴木禎治カ所有ニ係ル同村字崎濱ニアル大綱ノ點屋ト稱スル建物内ニテ漁夫五人ト共ニ雜話ヲ爲シ居リシニ突然南方ヨリ第一回ノ激浪浸入シ來リ忽チ五人ハ點屋ノ北隅ニ押寄せラレ互ニ梁ニ縋リ付キタルモ退潮ノ爲メ海中ヘ押シ流サレ常ニ平水ヨリ高キコト八尺長サ二間半程ナル黒子島ト稱スル處ニ至ルヤ點屋ハ其嶋ニ打當リ微塵ニ碎ケタリ依テ直チニ材木ニ取リ付キ五分間許リ沖ヘ流サレシ時第二回ノ激浪來テ先ノ黒子嶋ニ打揚ケラレシニ復タ退潮ノ爲メ沖ヘ流サルコト五分間許リ其間浮沈スルコト數回ニシテ尙復タ第三回ノ激浪ニテ最初ノ島ヘ打揚ケラレ幸フシテ岩ニ縋リ付キ居リシニ追々浪ハ靜穩ニ歸シタルヲ以テ其島ヨリ三間許ヲ去ル「ゴブイット」ト稱スル海岸ニ泳キ付キ歸宅シタルハ午後十一時頃ナリ扱テ浪ノ初メテ來リシヨリ三回目マテハ凡ソ十分間餘ト思ハレタリ他ノ四人ハ家ノ北隅ニ押寄せラレシマテハ一所ナリシモ其後何レノ場合ニ於テカ溺死セリ

本吉郡唐桑村字小嶋大工職長助

長男 小松松助(廿五年五月)

本人ハ六月十五日午後八時頃激浪襲來スルニ及テ背後ノ山ニ攀チ登ラムトセシモ左右ヨリ浪ニ挾マレ登ルコト能ハス漸ク裏側ノ柱ニ縋リテ屋内ニ入りシカ途ニ次回ノ浪ニテ灣内ニ押シ流サレ灣ノ中央ニ於テ溜桶ニ乘リ灣口ニテ折シモ流レ來レル厩ノ屋根ニ乘リ移レリ此時小舟ニ乘リ來ル人アルヲ以テ助ヲ乞ヒタルニ聲ニ應シテ船ヲ漕キ寄せ來リシモ其際復タ大浪ノ襲來ニ遇ヒテ遂ニ其ノ影ヲ失ヒタリ此ニ於テ獨リ思ヒラク此儘洋中ヘ押シ流サルル時ハ到底死ヲ免レス寧ロ死ヲ決シテ泳チ岸ニ達スルニ如カスト奮然意ヲ決シ厩ノ屋根ヨリ海中ニ飛ヒ入り凡ソ十間許ヲ泳キシ時ニ忽チ激浪ニ捲込マレ漸ク浮ヒ出ツレハ復タ大浪來リテ捲込マレヌ此ノ時ニ當リテハ已ニ手足ノ自由ヲ失ヒ深ク海底ニ沈ミシカドモ幸フシテ再ヒ浮ヒ出ツレハ長五尺許ナル五寸角柱一本流レ來リシヲ以テ氣ヲ鼓シテ之ニ飛ビ乘リ一憩シタル後更ニ股ニ挾ミ兩手ヲ以テ水ヲ掻キシモ容易ニ目的ノ地ニ達スルコトヲ得ス凡ソ拾間許ニシテ蒲屋根(長九尺 横三尺許)ニ個流レ來タルヲ見之レニ乗移リ其レヨリ字角廻リ「オソコトド」ト稱スル處ノ嶋嶼ニ取付キ始テ蘇生ノ思ヲナセシカ該所ヨリ

陸地へハ尙ホ幅五尺許リノ潮流アリ之ヲ渡ラザレバ全生ヲ期スヘカラス且ツ闇夜
 前岸ノ何タルヲ見定ムルコト能サレトモ倉皇ノ際前後ノ差別ナク無暗ニ飛越ヘタ
 ルニ不幸ニシテ沈リ落チタリ然ルニ此時幸ヒ潮水ノ退キタル場合ナレハ更ニ岩石
 ニ手ヲ掛ケ攀チ上リシニ恰モ屏風ヲ立テシ如キ斷崖ニシテ遂ニ復タ沈リ落チ膝部
 ト足部ニ各長五寸横七分許リ負傷シ且ツ右足拇指ノ爪ヲ破リシカトモ勇ヲ鼓シテ
 再ヒ攀チ上リ漸クニシテ陸地ニ上ルコトヲ得タリ時ニ足部ノ傷口木石ニ觸レ苦痛
 堪ヘ難ク三度程倒レシカド此儘ニ止マルヘキニアラチバ道ナキ山間十二三丁許リ
 ヲ裸体洗足ノ儘歩行シ字鴨木千葉三藏宅ニ辿リ付キ時ハ己ニ夜ノ十二時過キナ
 リシ同家ニ於テハ衣類ヲ着セ呉レ手拭ヲ以テ傷ヲ繙帯シ且ツ味噌粥ヲ與ヘラル、
 等手厚キ救護ヲ受ケ翌十六日午前八時頃杖ニ扶ケラレテ歸リ來レリ

本吉郡唐桑村字小鯖商業

小山鶴治(三十年十月)

本人ハ當夜感冒ニ罹リテ宅ニアリシカ汽船ノ疾走スルカ如キ音響ヲ聞クヤ早已ニ
 床上三尺餘潮水浸入シ來リ忽チ谷奥ニ向テ凡ソ二百間許リ押寄せラレ我知ラス材

木ニ乘リシ時四五間脇ニ妹せきモ亦材木ニ縋リ居タルヲ見テ幾多ノ材木ヲ渡リ妹
 カ居リシ處ニ行キ互ニ手ヲ携ヘ水ノ減スルヲ待チ居リシニ第二回ノ浪ニテ又十間
 許リ奥へ押寄せラル、途端妹ヲ見失ヒ殆ント精神ヲ失ヒタルカ浮ミ且ツ沈ミナガ
 ラ灣内凡ソ三百間許ノ處へ流シ出サレヌ此時幸ヒニ鯉船ノ漂流シアルヲ認メ之レ
 ニ乘リシニ六七間離レシ處ニ赤魚船ニ縋リ救ヲ呼フモノアリ近ツキ見レハ鬟ニ見
 失ヒタル妹せきナリシカハ其ノ船ヨリ網ヲ投ケサセ之ヲ引ケドモ兩船容易ニ近寄
 ラサルヲ以テ其網ヲ便リニ海中ニ入りテ妹ノ船ニ至リ暫クスル中同村字中鈴木貞
 三郎吉田善藏鈴木善之助千葉寅之助鈴木伊三郎島山源六ノ六名船ヲ漕キテ救助ニ
 來リシカハ右救助船ノ引船トナリ僅カニ陸ニ上ルコトヲ得タリ其如何ナル場合ナ
 リシカハ氣付カサレトモ足部ニ長四寸許リ負傷シタリ而シテ右救助船ヲ出シタル
 ハ吉田源藏ナルモノナルカ同夜不意ニ異常ノ音響ヲ聞キ海嘯ナラムト思惟シ小鯖
 灣ニ繫留シアル鯉船ノ安否ヲ心配ノ餘リ雨ヲ冒シテ小鯖ニ至ルヤ偶々海岸塵芥ノ
 裡ヨリ小兒ノ助ヲ呼ブモノアリ聲ヲ便リニ近ツキ見レバ八九歳ノ男兒ナレハ之ヲ
 介抱スルト同時ニ始テ大災アリシコトヲ知りタリ依テ六名カ船ヲ出シテ救援セン

トスルニ若シ再ヒ激浪ノ來ルアラハ船ハ忽チ破壊スヘキモ同胞ヲ見殺シニスルニ忍ヒス萬一ノトキハ共ニ魚腹ニ葬ラルヘントノ決心ヲ以テ直ニ船ヲ漕キ出シ二張ノ提灯ニ蠟燭九挺ヲ消スルノ間小山鶴治外七名ヲ助ケ流失セントスル鯉船三艘ヲ繫キ留タルモノナリ

本吉郡唐桑村字小鯖商業松之助

孫 龜谷秋藏(十八年九ヶ月)

本人ハ六月十五日同字商業鈴木利三郎宅ニ至リ利三郎ノ長男鈴木純七(二十年)雜話中午後八時頃大砲ノ如キ音響ヲ聞クト同時ニ續テ二回許リ地震アリシ後雷霆ノ如キ激響アリシヲ以テ何事ナラムト中仕切ノ戸ヲ開クヤ臺所ノ土臺際ヨリ潮水噴キ出ルヲ見テ此ハ海嘯ナラムト直ニ坐敷ニ歸ル間モナク潮水充滿シテ床板浮ヒ兩名トモ疊ト天井ノ間ニ挾マレ苦悶ニ堪ヘサル故手ヲ以テ天井ヲ突キ上ケテ這ヒ上リ其レヨリ鈴木利三郎雇女なるみ(十六年)同人二女たまじ(八年)同人長男純七ヲ順次ニ引揚ケ居リシニ何處ヨリカ同人次男好雄(十三年)來リ都合五人ニテ一憩シタル後屋根ヲ貫キ僅ニ頭ヲ出シテ四方ヲ見ルニ闇夜ニシテ咫尺ヲ辨セス隨テ何レノ海面

ニ漂流セシカ不明ナレトモ浪ノ流動ニヨリテ家ノ轉回スル内東南ノ方位ニ當リ山影ヲ認メタリ仍テ屋根ノ頂上ニ登リシニ百間餘北方ノ海岸ニ提灯ノ光ヲ見始テ同村字角廻リナルヲ覺リ救助ヲ呼フモ更ニ應答ナシ其中自然ニ同所オメコイドト稱スル海岸十間餘ノ所ニ近ツキタルヲ以テ直チニ海水ヲ泳キ上陸シタルハ既ニ夜十二時頃ナリキ暫クスル中屋根ハ海岸淺洲ニ近寄リシ故他ノ四人モ續テ上陸セリ

本吉郡唐桑村字鯖立漁業

鈴木仁吉(四十二年)

本人ハ當日午後七時頃夜食ヲ了リ妻たま孫喜太郎ノ三人ト坐敷ニ假寝ヲナシ弟捨太郎同人妻さち長男仁三郎同人妻みつ孫金太郎雇人さどノ六人及同村字日向島山徳之助ニ嫁シタルさよト共ニ臺所ニ於テ雜話ヲナシ居リシニ同七時五十分頃大砲ノ如キ音響アリシ故不審ニ思ヒ長男仁三郎カ臺所ノ戸ヲ開キテ始メテ異變アルヲ知リ海嘯來レリト呼フニ何レモ大ニ驚キ直ニ坐敷ノ障子ヲ一尺許リ開キ見ルニ三間許リ先キニ五尺餘高キ白浪來ルト思フ間モナク家ニ打當リさよト共ニ北隅ナル壁ニ突キ付ケラル、ヤ壁貫ケ二人共背後ノ山ニ打揚ケラレシニ幸ニ六寸回り程ノ

櫻樹アリシヲ以テ之レニ縋リシガ其際家ハ忽チ灣内ニ流出サレタリ此時不幸ニシテ縋リ居リシ櫻樹ノ拔ケシカハ兩人トモ直チニ海中ニ押シ流サレシニ偶長二間半幅五寸角位ナル材木ノ流レ來リシ故之レニ取付海岸ヨリ凡ソ四百間許沖ナル字カキイソト稱スル所マテ漂流セリ此ニ於テ仁吉ハ同字内ナル天神崎ヲ目當ニ凡ソ四十間餘泳キントキ黒キ麥稈ノ如キモノ流レ來リシヲ以テ之レニ縋リシニ又其跡ヨリ顛覆シタルサ、ハ船流レ來リシカハ此レ幸ヒト其船ニ乘リ移リ妹さよヲ呼ビタルニさよハ巖ノ材木ニ乘リタル儘手ニテ水ヲ掻キ十間餘近寄り來リシヨリ之ヲ船ニ移ラシメ此處ニテ暫ク助ヲ呼ビ居リシカ沖ノ方ヨリ高浪復々襲來シ乘タル船ハ自然十間許リ西ナル字タルホシバト稱スル岸ニ近寄りシヲ以テ妹ト共ニ四間餘泳キ始テ上陸シタルハ翌十六日午前一時頃ナリシ其レヨリ兩人共同字鈴木頑治ノ宅ニ至リ衣類ヲ借り藥品ヲ貰ヒ服用シ居リシニ一時間ヲ經テ長男仁三郎同人妻しづ雇人さどノ三人モ亦來レリ其後一時間餘ヲ過キ弟捨太郎同人妻さちノ兩人モ來リ何レモ同様ノ手當ヲ受ケタリ而シテ仁三郎及同人妻みつ雇人さどノ三人ハ巖ニ家屋ノ押シ流サレシ際早クサ、ハ船ニ乘リシ爲メ灣内五六間ノ所ヲ數回漂流セシ後

自家ノ海岸へ上リ弟捨太郎同人妻さちハ家ノ天井ニテ水中ニ居リシ儘押シ流サレ凡ソ百五拾間餘ヲ距ル蛭子棚ト稱スル處へ打當リ此ニ於テ屋根ノ萱ヲ毀リテ其上へ這ヒ上リ其レヨリ蛭子棚へ上陸シタリ然ルニ妹さよハ翌日夫家へ戻シ遣リタルニ其後十日許リ腹痛セシモ全快シ仁吉ハ腹部及腕ニ微傷ヲ受ケタルモ自療ヲ以テ全治シ弟捨太郎ハ肩ヲ五六分負傷シ四日許リ赤十字社救護病院ノ治療ヲ受ケ是レ亦タ全癒シ仁吉妻たむ長男喜太郎孫金太郎ハ何レノ場合ニ於テカ溺死シ死体ハ翌日發見シタリ

本吉郡唐桑村字鮪立寄留商業

丹野贊之助(三十九年四月)

本人ハ六月十五日午後六時頃同字商業村上定吉來リ對酌中午後七時四十分大砲ノ如キ音響アリシヲ以テ不審ニ思ヒ如何ナル變事ヤ起ルヤラムト二回ノ音響毎ニ時計ヲ見居リシニ須臾ニシテ村上ノ暇ヲ告ケ戸口ニ出ツルヲ以テ之ヲ見送ラントテ夫妻共ニ戸口ニ至リ暫シ直立シ居ル中俄然頭上ヨリ水溢レ掛リシカハ互ニ何事ナラムト言フ間モナク潮水ハ已ニ室内ニ充滿セリ是ニ於テ妻さよし(三十九年)ト共ニ互

ニ手ヲ携ヘ水中ナカラ戸口ノ柱ニ縋リ付タルニ直チニ初回ノ浪ニテ居宅ハ海岸ヲ
 距ル三百間餘ナル沖ノ蛭子棚ト稱スル附近ニ流出サレヌ此ノ時屋根ノ上ト覺シキ
 所ニテ丹野死ヌナト呼フモノアリ其時さよしハ柱ニ縋リ贊之助ハさよしノ身体ニ
 縋リ居リシカ其ノ手ヲ放シ右ノ手ニテ屋根ヲ突上シニ幸ニモ突キ貫ケシカハ其ノ
 穴ヨリ上ニ手ヲ出シ曩ニ死ヌナト呼ヒタルハ村上ノ聲ナラムト思ヒシ故村上此處
 ダト答ヘシニ暫クシテ村上ハ屋根ヲ劊キ夫妻ノ手ヲ取テ引上ケ吳レタリ依テ辛フ
 シテ屋根ニ上リシモ到底生存ノ見込ナキヲ以テ互ニ後事ヲ語り死ヲ決シテ心細ク
 モ四方ヲ眺メ居ル中村上ハ早ク何レヘカ其影ヲ隠セリ夫妻ハ心ノ中ニ流レ船ニテ
 モ來レカント念シツ、其屋上ニ佇立セシモ元來杉皮葺ノ軟弱ナルモノナレハ危險
 ニ思ヒ其場ニ流レ來リシ他ノ屋根ニ乘リ移リシニ同字菅野作治ノ妻とくカ裸体ノ
 儘乘リ居リタルヲ見さよしノ衣類ヲ貸シ與ヘ尙波浪ニ任セテ漂流中幸ニシテ赤魚
 船ノ流レ來ルアリ依テ直ニ之レニ乘移リ始テ蘇生ノ思ヲナセリ此時凡ソ三十間餘
 距リタル所ニ於テ助ヲ求ムル者アリシカバ自分ハ素ト游泳ヲ能クセサルノミナラ
 ス精神疲勞シ且ツ潮水飲下ノ爲メ腹部膨脹シテ苦痛ニ堪ヘサルモ助命ヲ乞フ者ハ

之ヲ助ケサルヘカラスト思惟シ其聲ヲ便リニ海中ニ累々トシテ漂流シアル材木ヲ
 渡リ行キシニ同字村上忠吉次男米吉ニシテ顛覆セル小船ノ艫梁ニ合掌シナカラ行
 ミ居タル故之ヲ背負ヒ自分ノ船ニ連レ來リシカ米吉モ亦裸体ナレハ拯ヲ與ヘテ暖
 ヲ取ラシメタリ續テ又タ凡ソ十間餘ノ處ニ於テ助命ヲ乞フ者アリ依テ船ニ積ミア
 ル橋ヲ推シ遣リシモ長ケ短クシテ達セサレハ漂流セル木材ニ乘リ橋ヲ推シナカラ
 其場ニ至リ見ルニ同字鈴木豊三郎ノ妻ト女ト同人ノ妹ハるい同人ノ長女トねよト
 ノ三人ニシテ漂流家屋ノ軒際ニ佇ミ居タリ因テ先ツた女ノ手ヲ引キ橋ヲ渡ラセテ
 我船ニ連レ來リ再ヒ其場ニ引返シつねよハるいノ二人ヲモ連レ來リシニ又々六七
 間ヲ距ル所ニ於テ助ヲ求ムル者アルヲ以テ船ニ積ミアル鉤付ノ竹棹ヲ投セシモ長
 ケ短クシテ達セサレハ材木ニ鉤ヲ掛ケテ船ヲ近ツケシニ同字村上多八ノ妻とめ
 嫁とね長男藤藏三男藤作ノ五人裸体ノ儘漂流シ居ルニ付キ皆船ニ乘リ移ラセ自分
 ノ着シ居リタル襦袢ト腰巻ヲさねニ褌ヲ多八ニ前垂ヲ藤作ニ貸與シ其レヨリ多八
 藤藏ヲ相手トシ漂流ノ家屋材木等ヲ押シ分ケ其場ヨリ少シク沖合ニ漕キ出ラシニ
 當時岩手縣氣仙郡ヨリ廻リ居タル鯉船ノ繫留シアルニヨリ一同ト共ニ之レニ乘リ

移リ同字鈴木周吉ノ宅前ニ上陸シタルハ午後十一時頃ト覺ヘリ而シテ船ハ多八ニ任セヨシヲ引キ連レ鈴木禎治方ヘ便リ就キ妻ハ鈴木禎治ノ手當ヲ受ケ自分ハ飲下シタル水ヲ吐ンカ爲メ藥品ヲ乞フモ既ニ數十ノ被害者ニ與ヘタル末ナレハ殘餘ナシトノ事ニヨリ更ニ酒ヲ求メ凡ソ七合五勺程ヲ飲ミ再ヒ遭難者ヲ救護セント欲シ村上定吉ト共ニ海岸ニ馳セ至リシ際飲ミタル水ヲ皆吐キ出シケレハ精神稍舊ニ復セシモ何レノ場合ニテカ掌中ニ釘ヲ刺シ貫キ三週間餘赤十字社ノ治療ヲ受ケ全快シタリキヨシモ亦總身ヲ打撲シ開業醫師虎岩玄庸ノ治療ヲ受ケタリ是ヨリ先キ海中ニ於テ其ノ影ヲ失ヒタル村上定吉ハ初メ丹野ノ宅ヲ辭シ戸口ヲ出ントスルヤ屋根ヨリモ尙ホ高キ激浪押シ來リシカハ周章狼狽逃ルハ途ナク北側ナル窓ヲ破リ自家ヲ目指シテ凡ソ三間許リヲ泳キ出テシモ山崎健藏ノ納屋ト丹野ノ居宅ト衝突シタル途端丹野カ家ノ屋根ニ打チ上ケラレ其儘海中ニ押し流サレシカ沖合字蛭子棚ト稱スル附近ニ至リシ際屋根ノ上ニテ丹野死スナト數回叫ビシニ四分許ヲ經「村上此處タ」下答ヘ助ヲ乞フモ固ヨリ暗夜ニテ咫尺ヲ辨セサレハ如何トモスル術ナク唯其ノ聲ヲ便リニ死ヲ決シテ這ヒ行キシニ屋根ヨリ手ヲ出シアルヲ認メ直チニ

屋根ヲ剝キ力ニ任セテ丹野ノ手ヲ取り引キ上ケタレハヨシモ亦夫ノ腰ニ絶リ付キ共ニ屋上ニ出ルコトヲ得タリ是ヨリ漂流スルコト二十分程ナリシカ此儘ニテハ到底死ヲ免レ難シト思料シ幸ニ生存シタルモノハ互ニ遺族ノ爲メニ盡スヘキコトヲ約シ死ヲ決シテ凡ソ二百間餘ト覺シキ所ニアル同字小松健次郎ノ鯉船ヲ見當ニ泳キ行キシニ漂流物ノ爲メ進行ヲ妨ラレ浮沈スルコト數回ニシテ漸ク其船ニ泳キ付艙梁ニ網ノ垂レアルヲ力ニ之レニ乘リ始メテ蘇生ノ思ヲナシ一憩シ居リシニ五分間許ヲ經四五間先キニ同字鈴木鐵藏及同人妻もよノ兩人助ヲ求メナカラ泳キ來レルヲ認メ船ニ積ミアル網ヲ三回投ケ與フルモ長ケ短クシテ達セス更ニ鯉釣棹ヲ投ケ與ヘタレハ漸ク達スルコトヲ得之ニ依テ船ニ乘ラシメ後又三分許ヲ過キ同字小松あさハ同人孫昌平ヲ背負ヒ三女さの孫としよついの五人ト屋根ニ乘リ泣キ叫ヒナカラ自分ノ船ニ寄り來ルヲ見船ヨリ屋根ニ飛ヒ越ヘ先ツこさヲ肩ニ掛ケ乘リ移ラシメ再ヒさの外二名ヲ抱キ上ケ同シク乘リ移ラシメタリ後殆ト十分餘ヲ經タル頃水モ稍々平穩ニ歸シタレハ船ヲ送レト陸上ニ聲ヲ掛ケタルニ幸ニシテ同字小松源次郎カ小船ヲ漕キ來リシヲ以テ此レニ乗移リ始テ皆上陸スルコトヲ得タリ時

ニ午後十一時頃ニシテ其後モ丹野ト共ニ被害地ヲ奔走シテ救護ニ盡力セリ

本吉郡唐桑村字石濱漁業どめ

叔父 島山利藏(三十一年十月)

本人ハ當夜家ニ在テ讀書ヲナシ其儘居眠リ居リシニ(バリバリ)下云フ音響ニ驚キ覺ル間モナク居宅ノ倒ル、ト同時ニ床下ヨリ噴出スル潮水ノ爲メ天井ニ打テ揚ケラレシカハ畢生ノ力ヲ出シテ天井ヲ破リ又タ更ラニ屋根ヲ破リテ其上ニ登リ一ト安心ト思フ間モナク再度ノ浪ニテ屋根ハ微塵ニ破壊セラレ其ノ破材ト共ニ沖ヘ凡ソ千間許リト思フ程流出サレタル後始メテ浮ヒ出レハ微カニ陸上ニ人聲ヲ聞ケリ之ヲ望見スルニ南隣宇馬場ト稱スル處ナレハ遠ク洋中ニ漂流シタルニアラサルヲ知リ獨リ心ヲ強メ居リシ際退潮ニ押シ流サレシ材木ハ背部ニ當リ續テ右脚部ニ負傷シタリ然レトモ尙ホ流レ來ル材木ハ手ヲ以テ排除シツ、辛フシテ木材ニ取り付キ居リシニ更ニ又タ沖ヘ五百間許リ流出サレシモ幸ニシテ又千間許リ北ノ方字石濱ノ内稻村濱ノ海岸ニ打チ寄せラレタルヲ以テ凡ソ十間許リヲ泳キ始メテ上陸シ砂地ニ腹ヲ押シ付ケ飲下セン水ヲ吐キタル時ハ翌十六日ノ曙方ニシテ不思議ニ一生

ヲ得タリ此夜家ニ在リシ者都テ十人ナリシカ何レノ場合ニカ九名ハ何レモ溺死セリ

本吉郡唐桑村字只越

神谷三藏(五十八年)

本人ハ當夜浪ノ襲ヒ來ルヤ家ト共ニ谷奥ヘ凡ソ百六十間許リ押シ流サレ退潮ノ際屋根ニ上リシ儘沖ヘ三百間許リ流出サレ終夜漂流シテ翌十六日ノ曙方上陸セリ而シテ何レノ場合ニカ輕傷ヲ負ヘリ

本吉郡唐桑村字大澤農業

吉田忠助(五十九年)

本人ハ小松兼吉千葉甚作ノ三名ト共ニ同字ノ内(シナバ)ト稱スル所ノ鹽煮竈屋ニ於テ製鹽ニ從事中六月十五日午後八時頃高山ノ崩ル、カ如キ音響ヲ聞キ何事ナラムト竈屋ヨリ嘸ケ出テ海面ヲ見ルニ楕形ノ大浪奔騰シテ字館ノ内八幡岬ノ方面ヨリ押シ寄せ來ルヲ認メ或ハ海嘯ナラムト疑ヒ竈屋ニ入り他ノ兩名ニ傳フル間モナク泳キ來レハ忠助甚作ノ兩人ハ背後ノ山ニ攀チ登リ助カリシモ兼吉ハ溺死シ竈屋ハ流失セリ

本吉郡唐桑村字大澤鍛冶職長太郎

弟 姓不知倉吉十四年十一月

本人ハ海嘯ノ當夜寢ニ就カントセン折シモ海岸ニ當リ救助ヲ求ムル聲ト泣キ聲ノ起ルヲ聞キ不審ニ思フ一刹那前面ヨリ家大ノ高浪襲來シケレハ避ケムトスル間モナク忽チ家ハ潰レ屋根ノミ水上ニ浮ヒシ故二重梁ニ絶リナカラ押シ流サレシカ海岸ヨリ千五百間許リ東南ナル松島沖合ニ至リシ時風變リテ家根ハ自然ト西北ナル字竹ノ袖ト稱スル處ノ竹藪ノ際ニ近付キタルニ(凡五六百間)幸ニ流レ來リシ長二尋一尺角位ノ材木ニ乘リ移リ兩手ヲ以テ水ヲ搔キ漸ヤク海岸ニ上ルコトヲ得タリ此時既ニ翌十六日午前三時頃ナリキ斯クテ其ノ竹藪ノ中ニ於テ濡レタル衣類ヲ捲リ杯シテ歸宅セリ而シテ又タ長太郎(五十年一ヶ月)ハ同シク材木ニ絶リ松嶋近傍ヲ漂流スルコト二千間餘ニシテ同字出山ノ内袖ノ濱ニ上陸シタルハ是レ亦翌十六日午前三時過ニシテ非常ニ潮水ヲ飲下シ剩ヘ身体疲勞シテ步行困難ナリシモ勇ヲ鼓シ這ヒ且ツ歩ミ漸ク同字千葉兼五郎宅ニ至リ種々介抱ヲ受ケ稍ク歸宅セシカ其レヨリ病氣トナリ赤十字社ノ治療ヲ受ケ十五六日ヲ經テ全快セリ然ルニ母よしの妻カ

のめ長女みつ孫どなる妹ちよしノ五人ハ何レノ場合ニテカ何レモ溺死セリ

本吉郡鹿折村字鶴ヶ浦農業

小松 つめ(四十四年)

本人ハ當夜雷ノ如キ音響アリ追々近ツキ來ルヲ以テ何事ナラムト戸ヲ開キ海面ヲ見ルヤ此時遅ク彼時速ク激浪空ヲ捲テ襲ヒ來リ潮水忽チ室内ニ溢レ夫久作(四十五年)弟嫁しま(三十四年)ノ三人ハ共ニ海中ニ押シ流サレ其中つめハ材木ニ絶リ更ニ合木船ニ乘リ移リ海岸ヲ距ル五十間許リノ處ニ押シ寄セラレシ時恰モ退潮ニ際シ倂僥ニモ宅地ノ前ニ到リ同字小松萬之助ニ引キ揚ケラレ久作ハ海岸ノ石垣ニ泳キ就カムトシ居ルヲ是レ亦タ萬之助ニ引揚ケラレシモ五日目ニ死亡シ弟龜治及長男十左衛門長女じん次女とめ龜治ノ長女くら三女さつノ六人ハ最初背後ノ山ニ打チ寄セラレ母をどはハ屋根ニ絶リ居リ一時死ヲ免レタルモ遂ニ三日目ニ死亡セリ

本吉郡大島村字横沼漁業伊藤養之丞妻

まつの(三十四年)

本人ハ當夜長男養助(十二年)次男泰治(七年)三男由吉(五年)ト共ニ就寢中激浪ノ音響ヲ

聞キ最初ハ雷鳴ナラント思ヒ居リタルニ忽ニシテ激浪ノ浸入スルト同時ニ家屋破
壞シ四人共海中ニ押シ流サレシカまつのハ材木又ハ板戸ニ絶リ更ニ壁ヤ庇ニ乗リ
移リ海岸ヲ距ル百五十間許リノ所ヲ漂流中同村小野寺卯吉伊藤作五郎外七人ノ出
シタル救助船ニ助ケ揚ケラレ養助ハ破レタル家根ニ乗リテ漂流中宇古濱ト稱スル
所ノ出岩ニ押シ揚ケラレ退潮ヲ待テ上陸シタルモ泰治由吉ハ遂ニ溺死セリ而シテ
養之丞ハ當日同郡氣仙沼町ニ至リ歸途居宅ノ背後マテ來リシ際家屋ハ勿論家族皆
漂流サレシヲ見ナカラ他ノ遭難者伊藤留藏及同人姉はるゝ小松三之助妻さといノ
三名ヲ海岸ニ於テ助ケ揚ケタリ

本吉郡大谷村大字大谷二百四十二番地

平民榮藏弟 小野寺貞七(七十七年)

六月十五日兄榮藏ハ流網漁ノ爲メ出船不在ナリシカ午後八時頃頻リニ鳴動アリ最
初ハ近所ノ挽白ノ響ナラン杯話シ居リシカ漸次音響強マリシ故或ハ浪ナラント思
ヒ自分ハ坐敷ノ障子ヲ明ケ海上ヲ瞻ルニ變状ナカリシヨリ再ヒ爐邊ニ來ル間モナ
ク潮水浸入シ爐中ノ火ヲ消シ、カハ不審ニ思ヒナガラ坐敷ノ間ニ出テ見レハ激浪

既ニ既ヲ浸シ今ヤ居家ヲ襲ハントスル勢ナレハ逆ル、暇モナク忽チ浪ト俱ニ二百
間以上町上ノ須賀ト稱スル處マテ流サレ瞬時ニシテ須賀濱方面ヨリ襲來ノ激浪ニ
テ小島ト稱スル邊マテ逆流サレシニ其時ハ全ク夢中ナリキ稍暫クシテ夢ノ覺メタ
ル如ク風ト四方ヲ望メハ身ハ濱ヨリ五百間許リノ海上伊勢山崎ノ沖合ニ押シ出サ
レ材木ノ間ニ挾マレ居タリ此ニ於テ聲ヲ限リニ救ヲ求メタレトモ更ニ人聲タニナ
ク仍テ陸地ニ泳キ着カムトスルモ材木其他塵芥等海面ニ充滿シ身体自由ナラス折
柄屋根ノ漂流シ來ルヲ見テ漸ク之ニ這ヒ上リ居リシカ退潮ニテ漸々沖合ニ押シ流
サレ困苦ノ場合恰モ漁ヨリ歸リ來レル大谷濱ノ鳳京松之助ニ救ハレタリ又兄榮藏
ハ流漁ヨリ海岸ニ歸着シ將ニ居家ニ入ラムトスル途端海嘯襲來シ遂ニ死亡セリ自
分ハ脛ニ釘ヲ刺シタルノミニテ外ニ負傷ナカリシ

本吉郡大谷村大字大谷百四十五番地平民

利平弟漁業者佐藤利四郎

妻 〇 (四十五年)

本人ノ夫利四郎ハ遠島ノ大綱ニ出稼中ニテ六月十五日ハ自分獨リ在宅ナリシカ午

後八時頃轟々響き波ル音ヲ聞キ單ニ雷鳴ナラムト思ヒ居タルニ稍暫ク經ルモ其音響ノ止マサレハ不審ニ思ヒツ、戶外ニ出テ、往來ヲ見ルニ海濱ノ方ヨリ膝丈位ニ水ノ押し流レ來ルヲ見テ不審トハ思ヒシモ其儘戸ヲ締メテ内ニ入り爐邊ニ坐シ居タルカ「バチバチ」ト云フ音ノ聞ユルト同時ニ浸潮ノ爲メ坐シタル儘屋根際ニ押揚ケラレ且ツ咽喉ヲ締メラレタレハ苦シサ云ハン方ナク獨リ煩悶シ居ル中全身已ニ水ニ浸サレシ故辛フシテ衣服ヲ脱シ裸体トナリシ迄ハ聊カ記憶シ居ルモ其後ハ全ク夢中トナレリ暫クニシテ夢ノ覺メタル如クナリシカハ風ト四方ヲ瞻ルニ何時シカ我身ハ海中ニ浮サレアリシヲ以テ材木ニ縋リ付キ木材家具等ノ累々トシテ漂來スルヲ排除シツ、聲ヲ限リニ救ヲ求メタルモ援助シ呉ル、人モナク却テ其處彼處ニ救ヲ乞フ聲アルヲ聞クノミスクテ苦痛ノ間彼レ是レ時刻ヲ移ス中屋根ノ漂流シ來ルニ會ヒ辛フシテ這ヒ上リタルカ誰カハ分ラサルモ男一人其屋根ニ居タルモノアリシ而ルニ間モナク高浪襲來シテ身ハ再ヒ海中ニ轉没シ該屋根ハ遙カ沖合ニ押し流サレケレハ偶々身邊ニ横ハレル木材ニ縋リ付キツ、退潮ニ任セテ次第ニ沖合ニ押し出サレタルカ其時亦浪ニ襲ハレ殆ト魚腹ニ葬ラレントセシ折柄幸ヒニ漁船ニ

救ハレ大谷濱ニ上リシ時ハ翌曉鷄鳴ノ頃ナリキ

本吉郡大谷村字平磯六十二番地平民漁業

三浦萬次郎(三十八年)

六月十五日ノ夜ハ家族六人共團欒シ居リシカ午後七時過キ雷鳴ノ如キ響アリテ漸次地響烈シクナリシカハ唯事ナラスト思ヒ妹スゑの(十八年)ヲ戶外ニ出シ海上ヲ見セシメシニ浪カ來タ「ト云ヒツ、家内ニ入ルヤ妹ノ夫半治ハ家ヨリ駈ケ出シ海嘯ナリト呼ヒシ儘何レカ「出テ行ケリ母リよ妹くまの同ゑすの孫みどりト自分ハ家内ニ在テ半治ノ海嘯ナリト呼シヲ聞クヤ母ハ孫ヲ懷キシ儘臺所ヨリ中坐敷ニ遁ケシカハ自分モ其後ヨリ續テ中坐敷ニ片足ヲ入レンニ潮水早クモ坐敷ニ浸入シタレハ母ヲ救ヒ出サントスル間モナク再度ノ激浪襲ヒ來リ半ハ破壊セル家屋ト共ニ海上沖合三百間以上ノ處ニ押し流サレ屋根裡ノ竹ニ縋リ付キ居リシカ退潮ノ爲メ屋根ハ壞レ身体ハ木材ニ挟マレ北方海岸三四間ノ處マテ押し寄せラレタルハ陸地ニ泳キ着カムトシタルモ潮流急激ニシテ意ノ如クナラス却テ南方沖合ニ押し出サル、模様ナレハ力ヲ極メテ身邊ニアル木材萱塵芥等ヲ排除シ一本ノ材木ニ縋リ付キ海

岸ニ泳キ着カムトスル時梁ヲ認メタレハ直ニ之ニ攀チ登リ漸ク岸邊ニ漕キ着キ幸ニ九死ヲ免レタリキ然ルニ母妹孫ノ四人ハ救出スルノ暇ナク遂ニ海底ノ藻屑トナレリ而シテ潮浪ハ都テ三回襲來セシカ二回目ハ最モ激烈ニシテ最初ト三回目ハ稍緩ナリシカ如ク襲來ヨリ退潮マテノ時間ハ實ニ瞬速ニシテ僅カニ三四分間位ト覺ヘタリ

本吉郡大谷村字平磯六十四番地平民漁業

大原東五郎(二十四年)

本人ハ大谷沖鮪大網樽見張番トシテ日々出懸ケ居リシカ六月十三日ヨリ同十五日海嘯襲來當日迄東北ノ方位ニ於テ數回大砲ノ如キ音響ヲ聞キシカ當日音響アリテ凡ソ三十分程經タリト思フトキ海嘯襲來セリ同夜ハ家族一同就蓐セシカ間モナク(午後八時過キ)母ニ沖カ鳴動スレハ唯事ナラスト云フテ起サレシ故戶外ニ出テ海上ヲ見ルニ明神崎(平磯濱ノ突出シタル崎)ヨリ内濱ニ前後二重ナル高浪(前浪ハ凡ソ二丈餘後浪ハ四丈餘)ヲ認メシカハ大ニ警愕シツ、居宅ニ駆ケ入り戸締ヲ爲シニ歩許リ進ムヤ猛然タル激浪ノ屋内ニ襲來スルト同時ニ自分ハ屋根ノ裡ニ押揚ケラレ妻ハ當歳ノ女兒ヲ抱キシマ、浪ニ取ラレテ絶

命セリ家屋ハ瞬時ニシテ沖合四百間程退潮ノ爲メ押シ流サレ自分ト母ト長男甚太郎(四歳)ハ其屋根裡ニ籠リ付キ外部ニ出ラムトセシモ身体自由ナラス凡ソ二時間程經過シタリト思フ頃母ハ遂ニ溺死シ甚太郎ハ其死骸ニ籠リテ叫ビ居シカ暫時ニシテ屋根ノ破壊スルト同時ニ其下ニ捲キ込マレ其儘溺死セリ自分ハ幸ニ破壊シタル箇所ヨリ這ヒ出ルコトヲ得テ身邊ニ横ハリアル木片等ニ籠リ付キ陸地ニ漕キ寄セントシタルモ材木萱草等ノ爲メ身体數箇所ニ傷ヲ負ヒ疼痛甚クシク進退自由ナラサルヲ以テ材木ニ籠リ付キタル儘陸地ノ方ヘ凡ソ百五十間程漕キ寄セシ時萱草屋根ノ漂流シ來ルヲ是レ幸ヒト之ニ登リ暫ク氣ヲ休メ居リシ時南方ニテ救ヲ求ムルモノアリ誰ナルヤト問フニ同濱ノ佐藤長藏(十七年)チレハ此處マテ泳キ來レト聲ヲ懸ケ長藏ハ漸ク泳キ來リシモ神氣衰ヘ屋根ニ登ルノ元氣アラサレハ揮ヲ下シテ屋根ニ引キ揚ケ互ヒニ屋根ノ上ニテ休息シ居リシモ漸々沖合ニ流レ出ツルヲ以テ長藏ト共ニ材木ニ籠リ自分ハ長藏ヨリ十間許リ前ニ進ミツ、長藏ニ聲ヲ懸ケナカラ岸ヲ指シテ泳キシカ長藏ハ疲勞ノ爲メ身体自由ナラス終ニ途中ニテ溺死セリ而シテ自分ハ辛フシテ陸地ニ泳キ着キ九死ニ一生ヲ得タルモ父母妻子ノ五人ハ非業

ノ死ヲ遂ケ僅ニ自分ト弟ノ二人ノミ死ヲ免カレタリ

本吉郡大谷村字平磯七十一番地平民

多吉弟漁業 大塚芳 藏(十六年)

本人ハ六月十五日海嘯襲來ノ時ハ居宅ノ前ニ佇立シ海上ヲ眺メ居タルニ海潮ハ岸ヲ距ルコト三四百間許退キ汀邊ニ繫留シアル船底ハ全ク陸トナリシカハ不思議ノコトヨト思ヒ居ル中忽チ沖合ヨリ白浪山ノ如ク押し寄せ來ルヲ認メ大ニ驚キツ、逃レントスル間モナク居家諸共激浪ニ捲キ込マレタル後ハ全ク人事ヲ辨セス暫クニシテ風ト眼ヲ開キ見レハ身体ハ居家ヨリ五十間程山手ノ方ナル菊地勇吉ノ破壊セル家屋ノ材木家什塵芥ノ中ニ押し込マレ居リシカハ頻ニ救ヲ乞フモ更ニ救援スルモノナク稍暫クニシテ自ラ這ヒ出テ九死ニ一生ヲ得タリ而シテ家族ハ父母祖父母妹ノ六人死亡シ伯父並ニ兄弟夫婦妹ノ五人ハ或ハ家内ニ埋リ或ハ海上ニ押し流サレシモ辛フシテ溺死ヲ免レタリ

本吉郡大谷村平磯字赤込四十二番地平民

五十集商 紺野龜 藏(二十七年)

本人ハ退潮後二時間程經テ親戚等集合シ家屋ノ毀レ跡諸材ノ散亂シタル所ヲ通行スルニ當リ微カニ人聲ノ如キ音聲ヲ聞キシヲ以テ直ニ其場ニ至リ數人ニテ堆積シタル材木ヲ排除シ掘リ出シタルニ三男倉藏(五年)ナリシカハ種々介抱ヲナシ僅ニ蘇生セシムルコトヲ得タリ

本吉郡大谷村大字平磯字赤込三十八番地

平民清左衛門長男

漁業 紺野清十郎(三十一年)

本人ハ氣仙沼町日ノ出已代治ニ雇ハレ縮大網漁ニ従事スル者ナルカ六月十四日午前八時頃岩手縣氣仙郡姓不詳儀平ト同船ニテ氣仙沼町ヲ出帆シ大谷沖ノ大網ニ行キ翌十五日大谷濱ニ向ケ航行中日没前北方ニ當リ雷鳴ノ如キ音響ヲ聞クコト數回午後六時頃大谷濱ニ寄港シ儀平ハ陸ニ上リ自分ハ獨リ船ニ居タルカ絶ヘス雷鳴ノ如キ響アリ且ツ天氣雨模様ナレハ苦ヲ覆ヒ船中ニテ就寐セリ間モナク儀平モ歸船シタルカ不思議ニモ船底干上リタレハ船ヲ潛キ出シツ、沖合ヲ見レハ三丈以上モアラント思フ程ノ高浪襲來スルヲ認メ大變ナリト叫ビツ、船ヨリ陸ニ上ラントス

ル一剎那船諸共二百六七十間許陸上ニ押シ揚ケラレ杉樹ニ打當リケレハ船ヲ棄テ
テ該樹ニ上リタルニ暫時ニシテ退潮シ一命ヲ全フスルコトヲ得タリ儀平モ俱ニ陸
上ニ押シ流サレシモ是レ亦無事ナリシ

本吉郡戸倉村波傳谷區

漁業者 佐藤庄之助(四十八年)

本人ハ一家十一人ノ家族ニテ海嘯襲來シ家屋壞亂スルト同時ニ忽チ七人ハ即死シ
自分モ亦押シ來ル木材ニ打チ敷カレ只タ死ヲ俟ツノミナリシカ庄藏(九年)あきの(五
年)長之進(三年)ハ其木材ニ取り付キ悲鳴シ居ル中重手來ル激浪幸ニモ三兒ヲ置テ其
木材ヲ奪ヒ去リシカ爲メ九死ニ一生ヲ得タリ

本吉郡戸倉村波傳谷區

漁業者 三浦長七ノ遺孤

本人ハ一家六人ノ家族ナリシカ其レ海嘯ナリト云フ間モナク家屋忽チ微塵トナリ
長七外二人ハ即死セルモ長左衛門(九年)長之進(七年)なつ(二年)ノ三名ハ激浪ノ爲メ畑
地へ打チ揚ケラレ不思議ニ存命スルコトヲ得タリ

本吉郡戸倉村津ノ宮區

鍛冶職 高橋萬吉(三十六年)

本人ハ海岸大樹ノ下ニアリテ鍛冶職ヲ營ミアリシカ第一回ノ激浪ニテ家屋忽チ轉
倒シ其家屋ト共ニ一家七人海岸海上ノ別ナク渦卷浪ニ回轉セラル、コト凡ソ十分
許家内七人必死ト梁木ニ取付キ居リシニ第二回ノ激浪山ヲナシテ來リ家屋ハ微塵
トナリテ行ク處ヲ知ラス僅ニ取り付キタル梁木激浪ニ連レテ大樹ニ止マリ非常ノ
苦痛ヲ經タルモ一家七人幸ニ存命スルコトヲ得タリ

本吉郡戸倉村瀧濱區

漁業者 後藤勇作(五十三年)

本人ハ當日ノ漁業ヲ終リ船ヲ海岸ニ着ケ子弟二人ヲ海岸ニ立タセ其身ハ未タ船中
ニアリシカ忽チ山大ノ高浪白光ヲ帯ヒテ襲ヒ來レルヨリ其レト云フ間モナク船ハ
忽チ微塵トナリ子弟二人ハ影タモアラス(死亡)其身ハ漸ク破壊ノ船板ニ取り付キ回
轉出沒海中ニ在ルコト終夜其内陸ニハ家屋潰倒シ諸材相觸ル、音或ハ悲鳴ノ聲激
浪ニ和シ實ニ凄マシカリシカ天明ニ至リ助ケ船ノ爲メ辛フシテ九死ニ一生ヲ得タ

本吉郡戸倉村長清水區二百七十九番地漁業者

彦右衛門長男 須藤鶴松(六年)

彦右衛門ハ妻けんトノ間ニ鶴松(六年)あさの(四年)ノ二子ヲ擧ケ家族四人ナリシカ大浪ノ襲來スルト同時ニ家屋微塵トナリテ彦右衛門けんノ兩人ハ同時ニ非命ノ死ヲ遂ケ鶴松ハ激浪ノ爲メ漂流セル家屋ノ梁ヲ右手ニ握リ左手ニあさのノ襟元ヲ握リあさのモ亦タ双手ヲ以テ其ノ手ニ取リ付キ或ハ沈ミ或ハ浮ミ苦痛ノ間ニ呼吸スルコト殆ト三十分ニ及ヒ幸ニモ激浪ハ兩兒ト破壊ノ屋根トヲ遣シテ退却セシヲ以テ兩兒ハ辛フシテ生命ヲ全フスルコトヲ得タリ

本吉郡十三濱村小指區

漁業者 阿部新藏(二十五年)

本人ハ家族八人ニテ何レモ全潰トナリタル家屋ノ中ニ在リ或ハ梁ニ敷カレ或ハ倒レタル柱ニ押サレ遂ニ四人ハ悲鳴シテ死亡セシモ自分ハ之レヲ目前ニ聞キナカラ其身梁下ニ在ルヲ以テ如何トモスル能ハス死力ヲ出シテ屋根ヲ抜キ辛フシテ殘ル

三人ト共ニ生ヲ得タリ

本吉郡十三濱村大指區漁業者

西條萬治郎娘 とい(十五年)

本人ハ其家屋破壊シテ激浪ニ捲キ去ラレ僅ニ疊一枚ニ坐シタル儘凡ソ五十間餘海上ニ押シ流サレ激浪ノ間ニ聲ヲ限リニ助ケヲ求メアリシニ之ヲ聞キタル漁業家遠藤累藏ハ折シモ漁業雇人十余人ヲ引率シ提灯ヲ照シテ走セ出テタルモ潮勢激シク木材散在シアルヲ以テ一步モ進ムコト能ハス且ツ救助ノ聲四方ニ起ルノミナラス木材ニ敷カレ悲鳴スルモノ甚タ多キヲ聞キ聲ヲ捨ルモ救助セントスル決心ヲ爲シ人夫ヲ八方ニ指揮シテ力ヲ盡セシカ其内難ヲ避ケタルモノモ漸次來リテ之レカ手傳ヲナセリ然ルニ一艘ノ船タニナク如何セント思フ折柄幸ニモ一艘ノ船ノ襲ヒ來ル浪ト共ニ海岸ニ漂着シタレハ是レ天ノ助ケナリト人夫ト共ニ之ニ飛ヒ乗リ辛フシテ疊ニ乘リナカラ漂流シアルといテ救ヒ得タリ

本吉郡十三濱村大室區ハ戸數二十二戸ノ内浸水七戸流潰十四戸死亡者十三人負傷者六人アリシカ何レモ雷鳴ニ和シテ流車ノ進行ニ等シキ音響ヲ聞キ區々ノ臆説ヲナ

シ居ル一刹那大山ノ一時ニ崩ル、カ如キ猛勢ヲ以テ大浪打チ上ケタレハ其レ海嘯
 ヲト叫ヒツ、逃カレントスル間モナク重キ來ル高浪ハ一層ノ激烈ヲ加ヘ家屋家具
 ヲ微塵ニ碎キ人馬共ニ押シ流サレ且ツ押シ戻サレ燈火ハ消滅シテ前後ヲ辨セス潮
 浪ノ回轉ハ竹石ヲ飛ハシ木材ヲ漂ハシ其慘酷ナルコト言ハム方ナシ此場合ニ於テ
 生ヲ得タル者ハ眞ニ天幸ト云フヘシ殊ニ漁業佐藤太治兵衛(三十年)ノ妻はる(二十九
 年)ハ幼兒一人ヲ傍ニ臥サシメ一人ハ身邊ニアリシニ其レ海嘯ト呼フト同時ニ其家
 屋破壊セシカハ手早ク身邊ニアリシ幼兒ノ手ヲ取り傍ニ臥シタル幼兒ヲ搜ル間ニ
 潰レタル家屋ハ水車ニ捲キ込レタルカ如ク回轉スルヲ事トモセス自分ハ一兒ヲ頭
 上ニ捧ケナカラ右ニ倒サレ左ニ轉ケ潮水ノ口ニ入ルコト數回ナリシカ幸フシテ折
 レ殘リタル柱ニ取り付キ退潮ノ後聲ヲ限リニ助ヲ求メシニ夫ノ太治兵衛ハ己ニ家
 根ヲ破リテ生ヲ得タリシ故此處ニ來テ助ケ出セリ父權右衛門ハ剛ニ至リシ儘影タ
 モ止メスシテ潮亡シ一家十五人中幼兒ヲ合シテ四人ノ死者ヲ出セリ

(第三) 斷腸慘話

一本吉郡相川尋常小學校ノ主席教員原律平氏ハ仙臺ノ人ナリ平素忠愛ノ心深ク雅

ニ人ニ語テ曰ク「且校舍ニ變アラハ身命ヲ捧ケテ御眞影ヲ護リ奉リ斃レテ後已
 マンノミ」ト常ニ學校内ニ起臥セリ海嘯ノ日ハ買物ノタメ外出シテ某家ノ店頭ニ
 在リシカ津浪ト聞クヤ驀地ニ學校ニ馳セ歸レリ其ノ後ハ全部落海嘯ノ爲メニ襲
 ハレテ唯々濤聲ノ轟々タルヲ聞クノミニテ氏ノ消息ヲ知ルニ由ナカリシカ聽テ
 退潮ノ後生存セル人々打連レテ學校ノ在リシ處ヘ到リ見ルニ校舍ハ已ニ流失シ
 氏ノ影タニナシ左レハ定メテ御眞影ト共ニ海底ニ沈ミシナラント猶此處彼處ヲ
 見廻ル内一段小高キ處ニ何物カ据置キアルヲ近付キテ取上クレハ是ソ御眞影ノ
 箱ニテ外側ノ紙ハ濡レシモ御眞影ニハ一點ノ汚レモナシ人々皆奇異ノ思ヒヲナ
 シ這ハ氏カ日頃ノ言葉ニ違ハス一命ヲ擲チテ御眞影ヲハ取り出シナカラ途ニ海
 潮ニ捲去ラレシナラント且ツ感シ且ツ悲ミシト云フ尙ホ教育勅語モ恙ナク難ヲ
 免レシト聞ク氏カ如キハ洵ニ身ヲ以テ其職ニ殉セシ者ト謂フヘシ(與羽日新聞)
 一本吉郡十三濱村字相川ニテ海嘯ノ時或家ノ屋根ノ上ニ小兒三人這ヒ上リ泣キナ
 カラ助ケテクレト叫ブモノアルモ如何トモ詮方ナクアレヨトイフ間ニ
 後方ヨリ大屋根ノ浮ヒ來リテ覆ヒ掛ルヨト見レハ屋根モ小兒モ忽チ隠レタリ唯

其聲ノミハ今ニ耳ニ殘レリトテ鼻ウチカム老人アリキ(風俗書報)

一本吉郡唐桑村鮪立濱ノコトナリトカ一婦人ノ年二十四五歳許ナルモノ片手ニ麻ノ葉形ノ木綿切ヲ堅ク握リ詰メタル儘斃レタルモノアリ是レ已カ子ノ片袖ニテ斯ル非常ノ場合ニモ親子ノ情トシテ死スル迄モ吾子ヲ放タスアリシニ激浪ハ片袖ノミヲ殘シテ無慘ニモ身体ヲ奪ヒ去リシ者ナラン之ヲ聞クモノ誰カ酸鼻セサル者アラン(奥羽日新新聞)

一本吉郡役所員坂本良太郎氏ハ當夜所用アリテ志津川町ニ宿泊シ居タルヲ以テ幸ニ無事ナリシガ氏ト老父母ト息女ハ當夜志津川町荒戸濱ノ自宅ニアリテ爐邊ニ團欒シ四方山ノ談話ニ餘念ナカリシ折柄屋外ニザハト開慣レヌ音ノスルト思フ間モナク濁浪混々トシテ屋内ニ漲リ忽チニシテ五六尺ニ及ヘリ息女ハ其時當歳ノ小兒ニ乳房ヲ啣マセ居リシニ第一回ノ狂潮ヲ押シ寄スルト同時ニ無慘ナル哉乳呑兒ヲ懷中ヨリ凌ヒ奪ハレケレハヤレト思フテ矢庭ニ右手ヲ差シ伸ヘ愛兒ヲ激浪ヨリ奪ヒ返シ其身ハ手早く裸体トナリ湯布一點身ニ着ケス辛クモ屋外ニ泳キ出テ危キ一命ヲ萬死ノ中ニ拾ヒタリ去ルニモ老祖父母ノ身ノ上ハ如何ナ

ラムト氣モ半狂亂愛兒ヲバ小高キ處ノ木ノ根ニ縛リ置キ再ヒ漲キル濁浪ニ身ヲ躍ラセ漸ク我家ニ泳キ着キタル頃ハ激浪次第ニ退却シテ僅カニ膝下ヲ浸スニ過キサリケレハ今ハ心安シト矢庭ニ雨戸ヲ押シ破リ辛フシテ我家ニ入り見ルニ人ノ氣ハヒモナク家財道具ハ何一ツタニナク跡モ止メスナリニケリ扱ハ祖父母ヲ始メ參ラセ五歳ノ長女ヲモ海低ノ藻屑トナリケルカ如何ニスヘキト暫シハ途方ニ暮レ只タ茫然トシテイミ居シカ斯克テハ果テシト聲ヲ限リニ祖父様ヤ祖母様ト呼ビ叫ヘハ遙カノ底ニ微カニ人聲ノ聞ヘケレハコレニ力ヲ得テ漸トノコトニテ椽板ヲ剝シ見ルニ其下ニ祖父母長女ノ三人比目魚ノ如クナリテ蹲マリ居タリヌ如何ニセシゾト問ヘハ祖父ハ浪ノ押シ寄スルヤ孫女ヲ片側ニ抱ヘタル儘暫ラク屋内ヲ回リ居リシ際如何ナル機會ナリケン椽板ノ引クリ返ルト共ニ其下ニ敷カレ今ハ身動キサヘナラ子ハ只萬一ヲ神佛ニ祈リ居リタル處ナリトノコトニ何ハ兎モアレ一命ニ別條ナカリシコソ勿怪ノ幸ヒナリト五人相抱キテ感喜ノ涙ニ一夜ヲ泣キ明セリト云フ

一志津川救護院ノ病室内ニ四歳許ナル小兒ノ右ノ手ニ縋帶シテ釣ヲ掛ケタルカア

リ此兒ニ就キ最ト憐レナル談話アリトテ主任醫佐藤熊之助氏ノ語ル所ヲ聞クニ
 彼ノ夜兒ノ母ハ海嘯ト聞クヨリ兒ヲ背ニ負フテ家ヲハ遁レシカ材木ニ打當リケ
 ム兒ヲ負ヒシ儘道ニ倒レテ絶息ヘヌ或人小兒ノ泣聲ヲ聞キ付ケ馳セ行キテ此体
 ニ驚キ介抱セシモ其甲斐ナシ然ルニ背上ノ小兒ハ母ノ死シタルヲ知ラス眠レル
 モノト思ヒシカ母ノ衣ノ襟ヲ確ト握ミ引起サントシ（此母起キロ寢テハイヤダ）ト
 泣叫フニ立集ヒシ人々顔ヲ背ケ涙ヲ流サヌハナカリシト此兒モ右ノ二ノ腕ヲ挫
 キ居リシ故病院へ連來リテ治療セシニ幸ニ輕快ニ赴キタレハ近日退院スルニ至
 ラム但シ彼ハ海嘯ノ夜父母共ニ喪ヒ今ハ祖母ノ手ニ養ハレ居リ誠ニ不幸ノ者ナ
 リト（奥羽日
 日新聞）

一本吉郡大島村龜山ノ頂ニ一帶ノ松樹林立ス里人之ヲ涙ノ松ト稱ス傳ヘ云フ往年
 島中ノ漁夫數人鯉ヲ遠洋ニ釣リ颶風ニ遇フテ覆沒ス其ノ婦等思慕忘ル、能ハス
 日々此頂ニ上リ良人ノ或ハ無事ニ歸リ來ルコトモアラントテ秋波ヲ凝シテ沖ノ
 方ヲ望ムニ唯々海雲ノ渺々タルアルノミ遂ニ片帆ノ歸ヲ來ルナシ斯クノ如ク朝
 ヲ暮ニ至ル迄相望メトモ途ニ良人ノ舟ヲ見サレハ我夫ハ今日モ亦歸ラストテ

聲ヲ限リニ慟哭シ山ヲ降リテ明ケノ日復タ登テ相望ムコト前日ノ如シ斯ク毎日
 山ニ登ルニ各一本宛ノ松苗ヲ携ヘテ頂ニ植ヘタルニ今ヤ生長シテ巨木トナリヌ
 是レ涙ノ松ノ名アル所以ナリ然ルニ此時ノ被難ハ夫死シタルモ猶ホ寡婦ノ存在
 スルアリテ松ヲモ植エ香火ヲモ手向ケシカ今回ノ海嘯ニテハ夫婦相共ニ海底ノ
 藻屑トナリ復タ一株ノ涙ノ松ヲ植エルモノナシ哀レノ限リニコソ（奥羽日
 新聞）

一 漁船航海中波上ニ顯ハレアル屋根ヲ破リタルカ中ヨリ二人ノ子供現ハレ而モ
 生テ居レリ是レハ本吉郡鹿折村鶴ヶ浦永沼某ノ子ニテ兄ハ十一歳弟ハ五歳ノ男
 兒ナリ不思議ノ天幸ト謂フヘシ

一本吉郡志津川町荒戸濱小字平磯渡邊清太夫ハ一家九人ノ家族ナリシカ父母兄弟
 八人歴死若クハ溺死シ唯々本年十三歳ノ女兒一人殘リシトソ眞ニ哀レノ孤兒ト
 謂フヘシ

一本吉郡志津川町清水濱桶職佐藤總三郎一家ハ悉ク流失死亡シ殘ルハ伊三郎（十六
 年）ひめの（十四年）ノ二人ナルカ數多ノ親類悉ク死亡シタレハ眞ノ孤兒トナリ洗足
 破衣ノ儘來リテ警察署ニ其狀ヲ訴ヘ號泣シテ止マス之ヲ説諭スル巡查ノ聲モ曇リ

途ニ共ニ泣ク傍ニ聽ク役場員亦泣キ傍ニ見ルサヘイトモ哀レナリキ(東北新聞)

一本吉郡大谷驛小野寺寅右衛門ノ妹何ハ登米郡狼河原村へ縁付キシモノナルカ故アリテ寅右衛門方ニ歸家中海嘯六日前ニ分娩シテ母子共ニ健全ナリシカ終ニ海嘯ノ慘厄ニ遇ヒ激浪ノ爲メニ襲ハレ右ノ小兒ヲ抱ケル儘溺亡セリ初孫ノ顔ヲモ見スシテ慘死サレシ養父母及ヒ夫等ノ心中モ察シ遣ラルヘキモ生レテ六日目ノ可愛ノ我子ヲ抱キ産所ニアリテ共ニ慘死セシモノ、身ノ上コソ最モ哀レナレ

(東北新聞)

一本吉郡歌津村字伊里前駐在所詰巡查八島平一氏ハ海嘯被害ノ當時救護防禦ニ必死盡力中其住家ト妻子トハ海浪ノ爲メ流サレ二度目ノ波ニテ押揚ケラレシ際始メテソレト心付キシニ幸ニシテ妻ハ生存シ居リシモ八才ニナル小兒ハ遂ニ流失セシトシ(東北新聞)

一本吉郡志津川町清水細浦地方ニテ既ニ四五百人ノ死者アリ尋常一様ノコトニテハ埋葬スヘクモアラス故ニ一家一穴ト定メテ大ナル穴ヲ掘リ一家族四五人乃至六七人ノ死者ヲ一纏メニシテ穴中ニ運ヒ葬ムル有様實ニ目モアテラレス(東北新聞)

附記

宮城集治監雄勝濱出役所ノ被害

宮城集治監雄勝濱出役所大海嘯ノ爲メ流失ニ付キ本官(宮城集治監典獄小泉保直)直ニ現場ニ出張シ實地見聞ノ上取調ヘシ處同所へ出役セシメ置タル囚徒百九十五人看守三十四人ニシテ出役所ハ灣ヲ前ニ控ヘ殊ニ合宿所ノ位置ハ最モ其附近ナリシ爲メ激浪ノ衝ニ當リ轟然タル鳴動ヲ發スルヤ休憩セル看守十六人孰レモ戶外ニ出テ上官ノ指揮命令ニ従事スル際激浪怒濤ノ間ニ捲キ去ラレ内八人ハ僅ニ一生ヲ得タルモ餘ノ八人ハ生死不明内一人ノ死体ハ翌朝ニ至リ出役所ヨリ一町程高所ノ叢ノ中ヨリ發見セリ監房ニ於テハ宿直看守鳴動ヲ聞クト同時ニ激浪襲浸板塀ヲ押し倒シ立ロニ監房中ニ六尺以上汎濫シタルヲ以テ囚人ハ角格子ニ攀チ登リ救助ヲ求メシカ看守ハ必死ヲ極メ辛フシテ監房ノ扉ヲ數石ニテ打チ破リ水勢稍緩慢ニ赴クノ機ヲ見悉ク囚徒ヲ開放セリ開放シタル囚徒ハ看守長住居ノ近傍ニ集リシヲ以テ同所山腹ニ在ル最高所ナル天雄寺ニ避難セシム但シ開放セシ内五人ハ生死不明ニ

シテ二人ハ死躰發見セリ外搦ハ悉ク流失監房ハ大ニ破壊シ到底出役シ置キ
難キ狀況ナルヲ以テ跡片付ノ爲メ二十八人ヲ暫時留メ置キ餘ハ皆本監ニ引

キ揚ケルコトセリ(官報雜事
欄抜抄)

一同出役所ハ灣ノ正面ニアリ殊ニ看守合宿所ノ如キハ之レニ接近スルノ故ヲ以テ
海嘯ノ眞向ニ襲ハル、所トナリシ由ナルカ當夜休憩ノ看守十八名ニシテ終日ノ
劇務ニ身体疲勞シ半ハ寢ニ就キ中ニハ書見中ノ者モアリシト云フ今此ノ内ニ在
リテ存命セシ者ノ咄ヲ聞クニ時恰モ午後八時二十分頃海面ニ當リ轟然物凄キ鳴
動ヲ發シタリ急破コソ海嘯起レリト各叫ヒ合戸外ニ出ントシテ孰レモ臺所マテ
疾走シ來リシニ此時早ク彼ノ時遅ク實ニ咄嗟ノ間既ニ激浪怒濤ノ内ニ包マレ床
板ハ破竹ノ如キ響ヲ爲シテ天井裏マテ刳付ラレ身体ハ板挟ミトナリ出ルニ途ナ
カリシモ幸ヒナルカナ水明リニ壁ノ一隅ニ一ツノ穴アルヲ透見シタルニ依リ死
ヲ決シテ其穴ヨリ屋根上ニ出テシカ此時既ニ柱礎一掃セラレ僅ニ屋根ノミ漂流
シ居レリ之モ亦瞬時ニ裂ケントスルノ危機一髪ノ中ニ流れ來ル船アリシヲ以テ
直チニ之レニ飛乘リ三名丈ケ辛フシテ保命ノ途ヲ得ルニ至レリ監房ニ於テハ部

長一名ニ看守二名ノ宿直ナリシカ前同様ノ鳴動ヲ聞クト齊シク一名ハ早ク一監
房ヲ開扉セシモ外一名ハ他ノ監房ニ移ラントシタレド其監房ハ水先ニ當リテ赴
クコト能ハス囚徒ハ房内ノ柵壁ニ攀チ登リテ救助ヲ乞フノ聲四方ニ喧噪セリ時
ニ一人ノ看守危險ヲ冒シテ監扉ヲ敷石ノ大ナルモノニテ打破リ水勢稍緩慢ニ赴
クノ機ヲ見テ悉ク囚徒ヲ開放セリ此危險ヲ冒シテ開放シタル看守ハ佐藤信安ト
云フ水練家ナリシト且ツ不思議ニモ場内ニ建設シ置タルランプノ一ツ消ヘサリ
ケレハ之ヲ片手ニ差シ上ケ尙水嵩五尺ノ身体ヲ没スル中ヲ先導シツ、囚人ヲ無
事山上ニ引致セリ夫レカ爲メ二百ニ近キ囚人中僅ニ二名ノ溺死ト行方不明ノ者
二名ヲ出クセシノミナリト若シ此看守トランプノナカリセハ或ハ如何ナル事ニ
至レルヤモ計リ難シト云ヒ合ヘリ之レヨリ先キ部長ハ鍵ヲ取り出サント事務所
ニ入り再ヒ出テントスル時ニ於テ既ニ身体ヲ浚ハレ生命危フカリシヲ辛フシテ
萬死ニ一生ヲ得タリ開放シタル囚徒ハ殊勝ニモ看守長ノ住居近傍ニ蟻集シ尋テ
不取敢同所ノ山腹ナル天雄寺ニ避難セシメ置キシカ典獄ハ右ノ報ニ接スルヤ否
直チニ急行出張シ其處分方法ヲ講セシ上百五十六名ノ囚徒ヲ一先ツ本監ニ引揚

ケ残ル廿七名ヲシテ跡形付ノ濟ミ次第全ク引揚ラレタリ(與羽日 日新聞)
 一死亡及ヒ負傷者等ノ多キ中ニモ辛フシテ助カリシ草刈看守ノ如キ同夜合宿所ニ
 アリテ突然下部ヨリ海水ニ襲ハレシ爲メ家根ヲ破リテ逃レ出テントシ必死トナ
 リテ屋根ヲ破壊セシ際屋根裏ノ釘ニテ手及ヒ頭部ヲ亂刺シ非常ノ苦痛ヲ覺エシ
 モヤツト破リ出テ見ルニ四邊ハ漫々タル海潮故折能ク漂流シアル舟ニ乘リシモ
 浪ハ怒リ漕方ハ自由ナラヌ見ルノ流レ去リシヲ地方人民ニ救ハレ九死ノ中一
 生ヲ拾ヒシト云フ(東北新聞)

宮 城 縣

仙臺市柳町十四番地

印刷者

池田勝四郎

仙臺市東一番丁六番地

印刷所

仙臺印刷株式會社
(電話三〇八番)

明治三十六年六月一日印刷
明治三十六年六月五日發行

昭和八年三月廿二日
小牧實繁

32 6.30

